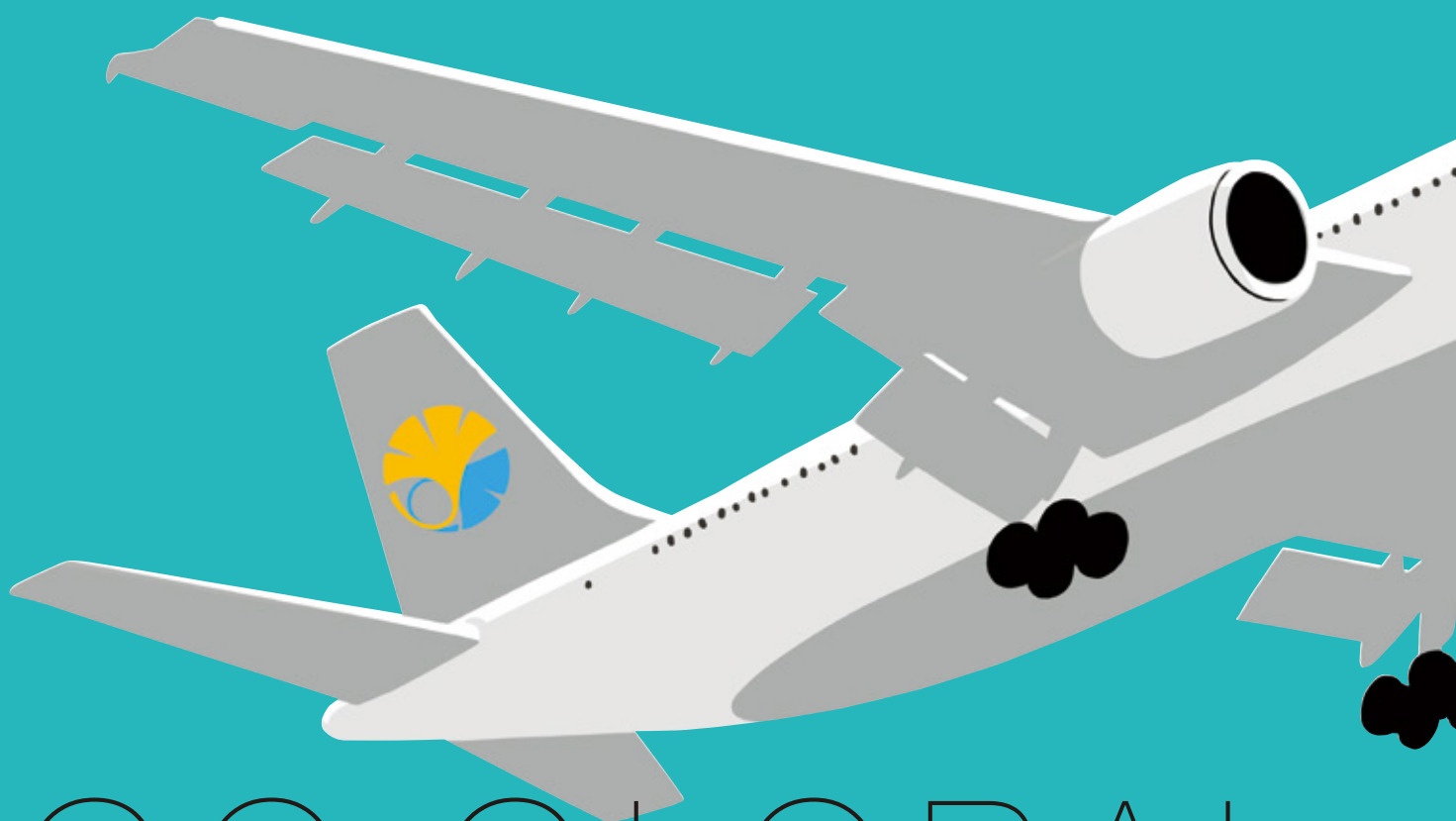




GO GLOBAL

東大から世界へ

東京大学 留学・国際交流ガイドブック 2023



THE UNIVERSITY OF TOKYO

Go Global

—もう一度海外に向かって

東京大学理事・副学長 林 香里



2020年春から始まった新型コロナウイルスの世界的な蔓延は、東京大学の国際交流にも大きな影響をもたらしました。たくさんの対面プログラムが残念ながらキャンセルされました。

コロナ禍の影響は続いていますが、ようやく対面の国際交流は再開しました。2022年秋には2年半ぶりに全学交換留学の学生を迎えることができました。派遣留学も全面的に始まり、本学の学生が世界の協定校で学んでいます。

渡航制限期間中に始められたオンラインの国際交流も続いています。海外に行けなくても、自宅や教室から世界の人のびとと交流することが出来るようになりました。

異なった生活習慣の体験、新しい友だちづくり、外国語の習熟、さらには興味深い研究テーマの発見など、若いうちの海外留学は、まさにライフ・チェンジング・エクスペリエンス。貴重で一生の宝ものです。

皆さんには今こそ、国際交流の機会を利用しながら、人やモノのグローバリゼーションとはどういうことか、世界中に深い亀裂と分断がみられるこの状況下、他者との対話と共感をいかに実現するかなど、21世紀の世界が直面する課題について主体的に考えて頂きたいと願っています。

私たちは、いま、まさにポスト・コロナ時代の「ニュー・グローバル」の地点に立っています。そのなかで、東大は国外諸機関との交流を今後一層活発にしていきます。ぜひ多様なチャンスを利用して、グローバルな知識と感性を磨いてください。

ポスト・コロナ時代の新たな「グローバル」実現に向けて

東京大学副学長・グローバル教育センター長 矢口祐人



2023年4月に設立されたグローバル教育センターは東京大学の学生の国際化を徹底的にサポートする組織です。

私たちは「グローバル教育コンシエルジュ」として、全学部学生対象の国際総合力認定（Go Global Gateway）、短期国際研修や交換留学、キャンパスでの国際活動などを展開し、皆さんがグローバルな姿勢を磨くために必要な情報と機会をたくさん提供します。

合わせて後期課程生向けに英語で行われる少人数授業「グローバル教養科目」を開講します。SDGs関連のテーマについて、英語で考え、英語で発表する力を鍛える授業です。

これからの世界で活躍するには、現代の社会を区分するさまざまな境界（ジェンダー、民族、言語、宗教、国籍等）を理解する想像力と対話力が不可欠です。多様な他者の存在を意識し、ダイバーシティとインクルージョンの大切さと難しさを感じる必要があります。

グローバル教育センターはそのための知識と感性を育むためにあります。センターが提供するGo Global情報（<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>）をぜひ活用してください。

CONTENTS

はじめに

—留学・国際交流を成功させるために—

..... p2-4

I 留学・国際交流プログラムの紹介

..... p5-37

1. 留学・国際交流プログラム (グローバル教育センター担当)

p6-23

1) 全学交換留学

p6-11

2) 学期単位のプログラム

p12-13

3) 全学短期派遣プログラム

p14-19

4) 国際総合力認定制度 (Go Global Gateway)

p20-23

2. 留学・国際交流プログラム (その他のプログラム)

p24-37

1) GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成

プログラム

p24

2) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」および

後期課程「後期国際研修」.....

p25

3) 体験活動プログラム・海外企業体験活動

.....

p26-27

①体験活動プログラム

p26

②東大生海外体験プロジェクト(海外企業体験活動)

.....

p27

4) 東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム

(UGIP)

p28

5) 学内でできる国際体験

p29-32

6) 各学部・研究科の取り組み

p33-37

①学部・研究科間交換留学 協定校一覧

p33-35

②各学部・研究科によるプログラム

p36-37

特設コラム グローバル教育センター

.....

p38

II 留学・国際交流関連情報

.....

p39-53

1. 情報収集方法

p40-41

2. 留学にかかる費用と奨学金

p42-45

1) 費用と奨学金例

p42-43

2) 支援者からのメッセージ

p44-45

3. 留学における学籍・単位認定

p46-47

4. 語学能力検定試験

p48

5. 安全と危機管理

p49

6. 留学と就職活動

p50

7. 卒業後の大学院留学

p51

8. よくある質問

p52-53

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響に関する注意事項

●最新の状況等を受けて、2023年度の各プログラムの内容や募集・開催方法が、本ガイドブックの情報から大幅に変更される可能性があります。各プログラムの最新情報は、必ず各プログラムのウェブサイト等で確認してください。

はじめに ー留学・国際交流を成功させるためにー



計画を立てよう

東京大学の中ではもちろん、大学外でも留学・国際交流プログラムを目にする機会がたくさんあると思います。自分がいま、どのようなプログラムに参加したいか、はっきりと決まっていますか？プログラムへ応募する前に、目的やスケジュールをよく考えて計画を立てましょう。

●プログラムに参加する目的は？

プログラムによって、学習内容や活動内容が異なります。「自分の専攻分野に関する知識を深めたい!」「専攻以外の分野を広く学びたい!」「海外で通用する語学力を身につけたい!」等、在学中の限られた期間で何を達成したいのか、自分の目的とプログラムの趣旨を照らし合わせてみましょう。

留学経験者の
声を読む



＼参考に見よう／

留学経験者の声からヒントを得よう

各プログラムのページで内容を確認しよう

国際総合力認定制度 (Go Global Gateway)

p20

●プログラムの実施期間・時期は？

1週間の短期プログラムから、1年間海外の大学で勉強する留学等、期間は様々です。また、夏休み等の休暇を利用したプログラムや、大学内でお昼休みに開催されるプログラム等もあります。自分の授業計画やカリキュラム等と照らし合わせてみましょう。

＼参考に見よう／

各プログラムのページで実施期間・時期を確認しよう

全学交換留学募集サイクル

p6

●自分の予算とプログラム費用は？

プログラムには参加費無料のもの、奨学金付きのもの等もあります。プログラムの要項等から費用を確認しましょう。また、外部団体の奨学金に応募することも可能な場合があります。留学等へ申請する前から応募可能な奨学金もあるため、プログラムの募集スケジュールと奨学金の募集スケジュールをよく確認しましょう。

＼参考に見よう／

各プログラムのページで費用を確認しよう

留学にかかる費用と奨学金

p42



情報を集めよう

自分に適した留学・国際交流プログラムを見つけるために、情報収集はとても大切です。以下のようなツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。また、実際にプログラムに参加した学生の体験談等も貴重な情報源です！

●所属学部・研究科で情報を集めよう

各学部・研究科にて、様々な国際交流プログラムや学部・研究科間交換留学等も行われています。各プログラムの情報を集めるだけでなく、留学に際して重要となる単位認定、学籍、授業履修等の相談もしておきましょう。

＼参考に見よう／

各学部・研究科の取り組み

p33

留学における学籍・単位認定

p46

●タイムリーに情報を集めよう

どの学部・研究科の学生でも応募することができるグローバル教育センターが担当するプログラムの情報やイベント情報等は、「Go Global ウェブサイト」で発信しています。タイムリーに情報が届くSNSも活用して、最新情報を集めるようにしましょう。

Go Global
ウェブサイト
に
アクセス



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>

＼参考に見よう／

情報収集方法

p40

●直接話して相談しよう

春の留学フェア、秋の留学説明会等のイベントに参加してみましょう。様々なプログラムの詳細な情報を得られるだけでなく、留学を経験した学生に直接相談できるチャンスです。



2019年春の留学フェアの様子



応募条件をクリアしよう

応募したいプログラムが決まったら、プログラム募集要項等で応募資格・条件を確認しましょう。多くのプログラムで、応募する時点で語学能力等の条件を満たしている必要があります。計画的に応募資格・条件をクリアしましょう。

●応募資格・条件の例

語学能力

プログラムが定める語学試験を受け、応募する時点で基準に達している必要があります。試験によっては年に数回しか受験できないもの、結果・スコアが出るまでに時間がかかるものもあるため、計画的に受験しましょう。

学業成績

留学プログラムや奨学金の選考では学業成績が考慮される場合がほとんどです。ただし、選考は総合的に行われることも多いので、積極的にチャレンジしてください！

東京大学への在籍

東京大学が企画・募集するプログラムの多くで、プログラム期間を通して在学していることや卒業・修了しないことを条件としている場合があります。事前に募集要項をよく確認しましょう。

その他

プログラムによって、年齢、学年、専門分野、今までに履修した授業等、細かい条件が定められている場合があります。

＼参考に見よう／

各プログラムのページで条件を確認しよう

語学能力検定試験

p48

国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) に登録しよう

すべての学部学生が登録する、国際的な学習や交流の機会への参加を後押しする制度です。学生が所定の条件を満たした際に認定証を授与しています。認定を受けた学生のみを対象とした特別プログラムも実施していますので、是非在学中に認定を受けましょう。

国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) について

p20

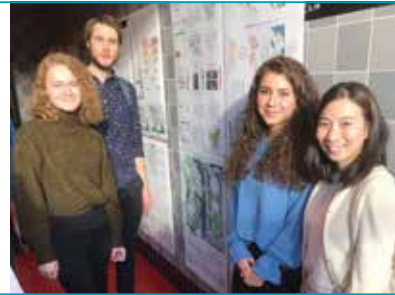
東京大学でできる留学・国際交流プログラムの紹介

東京大学には、数多くの留学・国際交流プログラムがあります。「多すぎてどのプログラムに参加すればいいかわからない……」という方のために、ここではプログラムを目的別に紹介します。対象学生はプログラム・コースごとに異なることがありますので、必ず各プログラムのページ等で確認してください。

★学部前期課程学生対象 ★学部後期課程学生対象 ★大学院学生対象

長期間海外で生活し、現地の大学でしっかり学びたい

- ★★★交換留学 →p6, 33
- ★★★UC派遣 →p12



海外経験もないし語学も苦手…それでもチャレンジしたい

- ★★★学期単位のプログラム →p12, 13
- ★★★全学短期派遣プログラム →p14
- ★★★主題科目「国際研修」 →p25
- ★★★体験活動プログラム →p26



将来グローバルに活躍したい

- ★★国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) →p20
- ★★GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成プログラム →p24
- ★★グローバル教養科目 →p30



東京大学のキャンパス内で国際交流・「留学」がしたい

- ★★★グローバル教育センター・グローバルゼーションオフィスの活動 →p29, 30
- ★★★International Lounge →p30
- ★★★スペシャル・イングリッシュ・レッスン (SEL) →p31
- ★★★UTokyo Global Unit Courses →p32



他にもプログラムはたくさんあります。さあ、踏み出そう!

I

留学・国際交流プログラムの紹介 p5-37

1. 留学・国際交流プログラム (グローバル教育センター担当) p6-23

- 1) 全学交換留学 p6-11
- 2) 学期単位のプログラム p12-13
- 3) 全学短期派遣プログラム p14-19
- 4) 国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) p20-23

2. 留学・国際交流プログラム (その他のプログラム) p24-37

- 1) GLP-GEfIL東京大学グローバルリーダー育成プログラム p24
- 2) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」および後期課程「後期国際研修」 p25
- 3) 体験活動プログラム・海外企業体験活動 p26-27
 - ①体験活動プログラム p26
 - ②東大生海外体験プロジェクト (海外企業体験活動) p27
- 4) 東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム (UGIP) p28
- 5) 学内でできる国際体験 p29-32
- 6) 各学部・研究科の取り組み p33-37
 - ①学部・研究科間交換留学 協定校一覧 p33-35
 - ②各学部・研究科によるプログラム p36-37

1. 留学・国際交流プログラム (グローバル教育センター担当)

1) 全学交換留学

概要

東京大学と東京大学の協定校(※1)が1学期～1年間学生を交換する留学プログラムを交換留学と呼びます。東京大学が授業料を徴収せずに協定校の学生を受け入れる代わりに、東京大学の学生は東京大学に授業料を納めれば、留学先での授業料を支払わずに協定校で授業を履修したり、研究指導を受けたりすることができます。これを大学全体で実施するものが「全学交換留学」であり、各学部・研究科が独自に行うものを「学部・研究科間交換留学」(p33-35参照)と呼びます。全学交換留学へはどの学部・研究科の学生でも応募することが可能です。

※1 東京大学が学生交流覚書を締結している海外大学のこと。

全学交換留学の詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html>

留学時期と募集スケジュール

1学期間あるいは1年間が一般的な留学期間です。実際の詳細な留学期間は留学先の協定校の学事暦(Academic Calendar)(※2)に基づきます。1年間の留学を希望する場合は、原則として秋学期からの1年間となりますが、春学期が学事暦の1学期目となる大学については、春学期開始の1年間の留学が可能です。

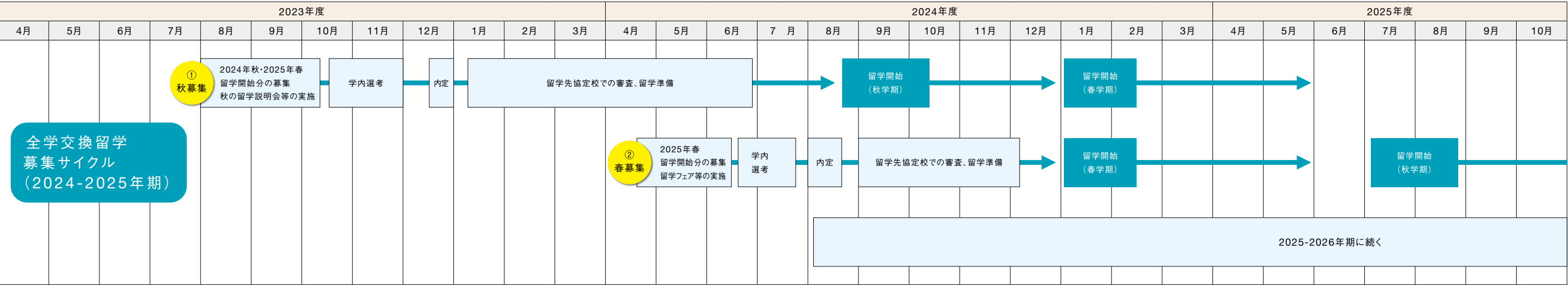
学内募集は年に2回行います。

①秋募集(8～10月頃): 翌年の秋学期留学開始分・翌々年の春学期留学開始分を募集

②春募集(秋募集の翌年の4～6月頃): 翌年の春学期留学開始分を募集(※3)

※2 海外の大学は一般的に1学期目:秋学期(8～10月開始、12月～翌年1月終了)、2学期目:春学期(1～2月開始、4～5月終了)の2学期制が多いです。また、2024年の秋学期(1学期目)～2025年の春学期(2学期目)という海外大学の1学年(Academic Year)を学内募集では2024-2025年期(AY2024-2025)と呼んでいます。

※3 前年度の秋募集で余った派遣枠および春募集までに加わった新規協定校の派遣枠を募集します。



※本ページの情報は全学交換留学のものであり、学部・研究科間交換留学については、学部・研究科ごとに異なります。

《メリット》

- ①評価の高い協定校への留学
東京大学の協定校は世界的に評価の高い教育機関です。事前に多くの情報が得られ、現地でのサポート体制も充実しています。
- ②留学先の協定校では授業料の支払いが不要
留学先の授業料が不要になる代わりに、東京大学の授業料は納める必要があります(※4)。
- ③協定校では交換留学生として優遇
宿舍を優先的に確保してもらえたり、留学生用カウンセリングを受けられたり等、特段の配慮をしてもらえるケースがあります。
- ④留学で取得した単位を互換
協定校で取得した単位が東京大学の単位として認定される可能性があります(※5)。
- ⑤プログラム付属の奨学金に申請可能(返済不要)
支給額は年度や地域によって異なりますが、月5～10万円ほど支給されます。また、東京大学や民間財団等が募集する他の奨学金への応募も可能です(p42-43参照)。

《主な資格・条件(一例)》

- 留学期間を通じて東京大学の正規課程に在学する者。留学期間内に東京大学を卒業・修了する者、東京大学の学部から大学院に進学する者は対象外です。
- 協定校が定める交換留学生の資格・条件を満たす者(語学能力、所属学部・研究科、学年等)。

《選考方法》

- ①学内選考(書面・面接審査)
書面・面接審査により学内選考を行います。審査では、学業成績・語学能力・申請書の記述内容や面接等が総合的に考慮されます。
- ②協定校での審査(書面審査)
学内選考を通過した学生は、協定校が定める申請書類を作成します。東京大学が留学先の協定校へ学生を推薦し、協定校で審査が行われます。協定校での審査を通過すると、留学決定です!

※4 留学期間中の身分は「休学」ではなく「留学」となり、東京大学の授業料を納める必要があります。大学院学生の場合、その活動の実態により「留学」または「研究指導の委託」の手続きを取ることになります。

※5 認定の基準は各学部・研究科により異なり、履修した科目によっては認定されない場合もあります。留学時の所属学部・研究科の担当部署に事前に相談しましょう(p47参照)。



全学交換留学体験記はこちら

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/report-list.html>

全学交換留学等経験者のインタビューはこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/career-why.html>

全学交換留学協定校一覧

国・地域	協定校	対象
台湾	国立陽明交通大学	学部/院
台湾	国立台湾大学	学部/院
中国	上海交通大学	学部/院(M)
中国	清華大学	学部/院
中国	浙江大学	学部/院
中国	南開大学	学部/院
中国	南京大学	学部
中国	復旦大学	学部
中国	北京大学	学部/院
香港	香港大学	学部/院
香港	香港科技大学	学部
インドネシア	インドネシア大学	学部
インドネシア	ガジヤマダ大学	学部/院(M)
韓国	高麗大学校	学部/院(M)
韓国	ソウル大学校	学部/院
韓国	浦項工科大学校	学部/院
韓国	延世大学校	学部/院
マレーシア	マラヤ大学	学部/院(M)
フィリピン	フィリピン大学	学部/院(M)
シンガポール	シンガポール国立大学	学部
シンガポール	ナンヤン工科大学	学部/院
タイ	チュロンコン大学	学部/院
ブラジル	サンパウロ大学	学部/院
チリ	チリ大学	学部/院(M)
チリ	チリ・カトリック大学	学部/院(M)
メキシコ	エル・コレヒオ・デ・メヒコ	学部/院
メキシコ	メキシコ国立自治大学	学部/院
イスラエル	エルサレム・ヘブライ大学	学部/院
トルコ	ボアジチ(ボスフォラス) 大学	学部/院
カナダ	トロント大学	学部/院
カナダ	ビクトリア大学	学部
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	学部/院
カナダ	マギル大学	学部
米国	イェール大学	院
米国	伊利ノイ大学アーバナ・シャンペーン校	学部
米国	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	学部/院
米国	ジョンズ・ホプキンス大学	学部
米国	スワースモアカレッジ	学部
米国	ノースイースタン大学	学部
米国	プリンストン大学(学部)	学部
米国	プリンストン大学(大学院)	院
米国	ワシントン大学	学部
オーストラリア	アデレード大学	学部/院(M)
オーストラリア	オーストラリア国立大学	学部
オーストラリア	クィーンズランド大学	学部/院(M)
オーストラリア	シドニー大学	学部/院(M)
オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	学部/院
オーストラリア	メルボルン大学	学部/院

※院(M)は修士のみ

国・地域	協定校	対象
オーストラリア	モナシュ大学	学部/院(M)
ニュージーランド	オークランド大学	学部/院(M)
ニュージーランド	オタゴ大学	学部/院(M)
デンマーク	コペンハーゲン大学	学部/院(M)
フィンランド	ヘルシンキ大学	学部/院(M)
フランス	エコール・ポリテクニーク	学部/院(M)
フランス	グルノーブル・アルプ大学	学部/院(M)
フランス	EHESS(社会科学高等研究院)	院
フランス	ストラスブール大学	学部/院
フランス	パリ政治学院	学部/院(M)
ドイツ	ケルン大学	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学	学部/院
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ＝マクスミリアン大学	学部/院
アイルランド	トリニティカレッジ・ダブリン	学部/院
アイルランド	ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン	学部/院
イタリア	ローマ大学ラ・サピエンツァ	学部/院
オランダ	フローニンゲン大学	学部/院(M)
オランダ	ライデン大学	学部/院(M)
ロシア	サンクトペテルブルク大学	学部/院
スペイン	マドリード自治大学	学部/院
スウェーデン	ウプサラ大学	学部/院
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	学部/院
スウェーデン	ストックホルム大学	学部/院
スウェーデン	ルンド大学	学部/院(M)
スイス	ジュネーヴ大学	学部/院
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ	学部/院
スイス	チューリッヒ大学	学部/院
英国	ウォーリック大学	学部
英国	エクセター大学	学部
英国	グラスゴー大学	学部/院(M)
英国	サウサンプトン大学	学部
英国	シェフィールド大学	学部
英国	ダラム大学	学部
英国	マンチェスター大学	学部
英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	学部/院(M)
英国	ロンドン大学東洋アフリカ学院	学部/院(M)
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリ ティカル・サイエンス	学部

※2023年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。覚書の更新や取扱いの検討等により調整中につき掲載されていない協定校があること、掲載されていても当該年度に交換留学を実施しない場合もあることに注意してください。※過去の派遣実績等はGo Globalウェブサイト(<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html>)に掲載しています。

派遣実績は
こちら



全学交換留学 体験記



氏名：鷲尾 春樹さん
所属・学年(留学開始時)：法学部3年
留学先大学・学部：グラスゴー大学・School of Law
留学期間：2021年9月～2022年5月(9ヶ月間)

治安が悪いとのネット情報があり、現地学生からも「店で包丁が品切れなのは事件が多いから」と冗談を言われましたが、実際には大学周辺や駅等生活圏で危険を感じることは一切ありませんでした。

雨空さえも、この街らしいと思えたら。

①留学を決めたきっかけ

1年時の短期プログラムでは短期だからこそ楽なことも多々あったので、日本に帰りたくても帰れない状況に1年弱身を置くことで「海外に生きるということ」がより立体的に見えてきそうな交換留学に興味をもちました。

②留学先での勉強内容

イギリス憲法の授業では、イギリス議会とスコットランド議会の関係(権限委譲)等をスコットランドの視点から重点的に学ぶことができました。加えて、コモン・ロー、国際法、ローマ法の授業のほか、既習者向けのフランス語の授業も履修しましたが、外国で外国語を用いて別の外国語を学ぶという経験は刺激的なものでした。

③留学先を勧める点

独立の住民投票の話に限らずスコットランド人としての意識や誇りを現地の人との会話の中で感じることも多く、イングランドに留学した人が見るのはまた違うイギリスの姿を見ることができるのではないかと思います。グラスゴーの人は評判通り温かく、例えば道端で花の写真を撮っているといい写真だねと声をかけられました。

寮では部屋にネズミ、フラットにコロナ、深夜にパーティー、と三拍子(?)揃っていて、共用部の汚れていく速度や火災報知器の作動頻度にも圧倒されましたが、深夜眠れないのは寮に相談したり、友達と会って気を紛らわしたり、自分なりに1年間やりきって単位も取得し帰国できたこと自体が大きな財産になったと思います。留学中は現地学生や他の留学生を見ては自分を省みて、イギリスを見ては日本を思い返し、留学というのは鏡のような体験だと感じました。イギリスも現地の人も好きになった(留学先の友人たちが現在逆に東京に留学に来ていて再会できました)一方で、日本も、そこでまた続いていく自分の暮らしも、もっと愛せるなと思いました。

・家賃/寮費(光熱費含む)	6万円/月
・食費	1万円/月
・渡航費	10万円
・娯楽費(旅行等含む)	12万円
・その他(教科書代・保険代等)	22万円
・奨学財団からの奨学金	8万円/月

費用と奨学金

全学交換留学 体験記



氏名：河 紐羅さん
所属・学年(留学開始時)：法学部第一類・3年
留学先大学・学部：ソウル大学校・政治外交学部
留学期間：2021年9月～2022年6月(10ヶ月間)

韓国は面積こそ小さいですが、とても良い観光名所が各地に沢山あります。私は新しくできた友達と済州島や全州、襄陽などに旅行に行きました。留学生活の中で一番楽しかった思い出です。

新しい経験が、成長の原動力になる

①留学を決めたきっかけ

中高の頃から、大学に進学したら交換留学をしたいと考えていました。英語圏に行こうと準備していましたが、コロナの影響もあり、母国で暮らしながら勉強をしてみたいという思いもあって、韓国に決めました。

②留学先での勉強内容

外交学科に所属していましたが、交換留学生はどの学部の授業でも受けられたので、関心のある講義は全て受講しました。環境経営学や建築モデリングの授業、法医学の講義をはじめ、韓国現代史や北朝鮮学概論といった韓国でしか受けられないような授業も履修しました。また、動物保護施設でのボランティア活動もしていました。

③留学先を勧める点

ソウル大学にはSNU Buddyという在学生と交換留学生との交流プログラムがあり、世界中から集まった学生と出会うことができます。図書館や食堂、スポーツ施設などの設備も充実していて、授業も自然科学から芸術系や体育系まで多様なので、勉学の面でも国際交流の面でも満足できると思います。

留学を迷っているという方は、ぜひ挑戦してみてくださいと思います。人生で一度は経験する価値のあるものと断言できます。自分が普段置かれた環境から離れたところで学び、遊び、休養するといった経験をすることは人生においてとても重要で、将来のキャリアや方向性を決めるにあたっても大きな指標になります。私自身、留学先で履修した授業や出会った友人たちを通して今後のキャリアに対する考え方も変わり、もっとグローバルに、自分らしく生きる方法について深く考えるようになりました。そして何より、交換留学をしていた間に自分自身を振り返る時間を設けることができ、自己啓発の観点から見ても、とても満足した留学生活でした。

・家賃/寮費(光熱費含む)	3万円/月
・食費	4万円/月
・渡航費	6万円
・娯楽費(旅行等含む)	15万円
・その他(教科書代・保険代等)	14万円
・奨学財団からの奨学金	7万円/月

費用と奨学金

全学交換留学 体験記



氏名：高橋 渚紗さん

所属・学年（留学開始時）：教育学部・3年

留学先大学・学部：コペンハーゲン大学 Social Sciences

留学期間：2021年9月～2022年7月（11ヶ月間）

印象的だったのは平日の昼間にお父さんがベビーカーを押している姿です。また、通勤ラッシュ時に、カーゴバイクに子どもを乗せて爆速で走る親たちを見るのは微笑ましく、面白かったです。笑

異文化に触れて見つめ直す、自分の幸せ

①留学を決めたきっかけ
国際的に住みやすい都市として知られるコペンハーゲンで、まちづくりや福祉国家の仕組みを学んでみたいと思ったからです。実際に暮らし、その場所で学ぶことでその住み良さを直に感じたいと考えました。

②留学先での勉強内容
自分の専攻である社会学の授業をはじめ、デンマークの建築・都市計画の授業、デンマークデザインの授業など興味に応じて幅広く履修しました。授業の中にはExcursionといってキャンパスを飛び出してフィールドワークを行うものもあり、実際の街を舞台に現地の文化や歴史について理解を深めることができました。

③留学先を勧める点
デンマークは「遠くて近い国」だと思います。地理的には遠いですが、治安の良さや人々の暖かさは日本に近い気がします。日本人も多くないので、海外で1人で暮らす経験がしたい人におすすめです。また、首都コペンハーゲンは自転車で30分もあれば全て回れるコンパクトシティで、様々な場所にアクセスしやすいです。

一年間の留学は語学力の向上はもちろん、自分にとって何が一番幸せなのかを考え直すきっかけになったと思います。デンマークは学費が無料なこともあり、様々な人生経験を積んだ現地学生が多いのですが、彼らとの交流を通し、自分がやってみたいことに踏み出す勇気をもらいました。日本にいと周囲との比較で人生の良し悪しを決めていたような気がします、自分のことを誰も知らない新しい環境に身を置くことで、自身の価値観を捉え直すことができたのではないかと感じています。
授業外ではインターンに参加したり、友達と旅行に行ったりして時間を過ごしました。授業のコマ数が少なく、自分のためにまとまった時間が取れたのは良かったです。

・家賃/寮費（光熱費含む）	11.5万円/月	費用と奨学金
・食費	2万円/月	
・渡航費	10万円	
・娯楽費（旅行等含む）	40万円	
・その他（教科書代・保険代等）	9万円	
・奨学財団からの奨学金	16万円/月	

全学交換留学 体験記



氏名：福里 拓海さん

所属・学年（留学開始時）：工学部都市工学科3年

留学先大学・学部：ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン

留学期間：2021年9月～2022年6月（10ヶ月間）

毎朝同じカフェでラテを半年ほど飲み続けた頃、いつもの店員さんに「今日はモカ頼むのね、学校頑張ってる」と言われたときに、「まちに受け入れてもらってこういうことだな」と思いました。

ひとを知り、じぶんと出会い、まちに溶けこむ

①留学を決めたきっかけ
都市を学ぶための引き出しを増やしたいと思ったことがきっかけでした。これまで沖縄と関東圏以外で暮らしたことがなかったため、全く別角度の都市体験を積んで視野を広げたいと思い、ロンドンを選びました。

②留学先での勉強内容
都市工が自由な学科なのに甘えて、都市関連の授業からオランダ史、政治哲学、物理など興味のままに授業を取りました。イギリスではどの授業も講義とゼミがセットで、ゼミ前に指定される読書課題をベースに議論するのですが、オランダ史などは学生が熱心で毎週あつという間に2時間のゼミが終わっていました。

③留学先を勧める点
ロンドンは一生涯いても飽きない街です。世界中のグルメ、最高峰のエンターテインメント、歴史的な建築など、どの角度からでも楽しませてくれる環境がロンドンにはあります。ロンドンに飽きたら、往復6,000円でヨーロッパのあちこちに観光もできます。何より、UCLには面白い、でも深みのある学生がたくさんいます。

みなさんは留学に何を求めるでしょうか。異国の地ならではの発見、日本では出会えない人との一期一会、モラトリアムの延長など、個々人で異なる思いがあると思います。私もそんな何かを求めて留学を決めました、留学前には予想もしなかった思わぬ収穫もありました。それは一番身近で一番遠い「自分」という存在の再発見です。中3で母を亡くして以来どこか母との記憶を直視できなかった自分、留学中も度々氣にかけてくれた沖縄の親戚に心から恩返ししたいと思った自分、そんな自分を発見できたのは、海外という環境のおかげだったと思います。等身大の自分に出会う、そんな時間として留学を捉えてみてみてもいいのではないのでしょうか。

・家賃/寮費（光熱費含む）	12万円/月	費用と奨学金
・食費	3万円/月	
・渡航費	18万円	
・娯楽費（旅行等含む）	50万円	
・その他（教科書代・保険代等）	15万円	
・プログラム付属の奨学金	10万円/月	

全学交換留学 体験記



氏名：清水 美紗さん

所属・学年（留学開始時）：経済学部金融学科・4年

留学先大学・学部：イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校・College of Liberal Arts and Science

留学期間：2021年8月～2022年5月（10ヶ月間）

学生や教授の出身が多様なため、インド料理にメキシコ料理、中華料理などキャンパス内のレストランが充実していました。日本料理は寿司くらいしかありませんでしたが…。

様々な文化が重なり合う中での学び

①留学を決めたきっかけ
昔から漠然と海外で働くことも視野に入れていて、短期ではなく長期で滞在してみたいと思ったのがきっかけです。また、専門分野を海外でも学んでみたいと思ったため、大学で留学しようと考えていました。

②留学先での勉強内容
自身の専門である、会計、金融や開発経済に関連のある授業を中心に履修していました。また、少しでも他の留学生や現地生との接点を増やしたいと考え、授業内で他の学生とコミュニケーションを多くとる授業を履修していました。特に、アクティビティを通してリーダーシップについて学んだ授業が印象に残っています。

③留学先を勧める点
1点目が、留学生向けのイベントや団体が充実していることです。学校主催のイベントが定期的に行われていて、今まで出会ったことのない国出身の留学生と話すことができました。2点目が、留学生のため一部履修制限がありますが、幅広い分野の中から授業を選択できることです。スケートの授業もありました。

留学で価値観がガラッと変わったということはありませんでしたが、帰国後大講義室が黒髪の学生で埋まっているのが異様な風景に見えるなど、当たり前と受け入れてきたことが絶対的なものではないと感じることが増えました。一旦就職してから博士課程に来ている留学生など、バックグラウンドが異なる学生と交流する機会が多く、そんな道もあるんだなと考えることが多かったです。私は学部卒業後就職しますが、海外の大学院にもいつかチャレンジしてみたいと思っています。交換留学は準備をはじめとして大変なことも多いですが、その経験は思い切った選択をするための自信につながると思います。

・家賃/寮費（光熱費含む）	6万円/月	費用と奨学金
・食費	5万円/月	
・渡航費	25万円	
・娯楽費（旅行等含む）	10万円	
・その他（教科書代・保険代等）	8万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	

全学交換留学 体験記



氏名：土井 空輝さん

所属・学年（留学開始時）：経済学部3年

留学先大学・学部：ジュネーヴ大学経済学部（GSEM）

留学期間：2022年2月～2022年6月（5ヶ月間）

・中国出身の学生4人とよく旅行し、計8回一緒に外食をしたのですが、6回は中華料理でした。
・インド出身の方曰く、「インド人＝数学得意」というイメージは、日本人特有のものらしいです。

安心安全の留学

①留学を決めたきっかけ
シンプルに海外に興味があったのと、自分の持っているステレオタイプや考え方の癖を、海外の視点から相対化したいと言う気持ちがありました。親も留学に強く賛成してくれたので、留学を決めました。

②留学先での勉強内容
修士課程の授業は履修できなかったのも、ミクロ、マクロ、初歩的なゲーム理論を英語で学び直すのが主でした。留学ならではの授業と感じたのは'Economics of Inequality and Distribution'で、データを扱いつつ、授業中の発言も盛んで、刺激を受けました。

③留学先を勧める点
授業中の英語は聞き取りやすいです。そもそも留学生の割合が高いので、イギリスなどに比べ、英語が得意でない学生にも優しい発言をしてくださっていた印象があります。また、留学生が多いため、似た境遇の友人が作りやすいと思います。自分の場合はフランス語の初心者講座で友人ができたので、助かりました。

留学前は不安も大きかったですが、実際行ってみると、コミュニケーションや新鮮な文化を楽しめ、ストレスを感じる機会はあまりありませんでした。ただ、自分は英語は伝われば良い、友人は5、6人もいれば大丈夫、というマインドで、多くの留学生に比べれば目標が低かったです。そのため、ストレスも少なく楽しむことはできましたが、もっと頑張ればよかったという後悔もあります（とはいえ、国内で学ぶより遥かに多くのものを得られたと思っていますし、留学自体には何の後悔もありません）。

楽しければいいのか、ストレスを覚悟して高い目標を立てるのか、留学の前に考えてみてください。

・家賃/寮費（光熱費含む）	20万円/月	費用と奨学金
・食費	4万円/月	
・渡航費	22万円	
・娯楽費（旅行等含む）	7万円	
・その他（教科書代・保険代等）	1万円	
・プログラム付属の奨学金等	18万円/月	

2) 学期単位のプログラム

UC派遣

米国カリフォルニア大学(UC)バークレー校およびデービス校の2校との協力により、東京大学の学生を1学期～1年派遣する留学プログラムです。バークレー校のAmerican and International Study Program (AISP)ではアメリカ政治と国際関係を勉強します。デービス校のGlobal Study Program(GSP)ではデービス校で開講されているほぼすべての授業から履修することができ、また、語学コースも実施されています。交換留学以外の方法で長期の留学が可能なプログラムです。基本的に授業料等の費用はすべて自己負担となりますが、東京大学や民間財団の留学用の奨学金に応募することもできます。

対象学生	実施時期		募集時期
	UCバークレー校	UCデービス校	
学部／院	Fall Semester：8～12月 Spring Semester：1～5月	Fall Quarter：9～12月 Winter Quarter：1～3月 Spring Quarter：4～6月	3～4月上旬頃

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-UC.html>



AEARU Global Learning Initiatives Program(オンライン)

AEARU(東アジア研究型大学協会)加盟大学の所属学生に対して、加盟大学間で授業がオンラインで提供されるプログラムです。学生は、1期あたり3コースまで参加することができます。

対象学生	実施時期	募集時期
学部／院	コースにより異なる	7月／1月

詳細はこちら



https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-AEARU_GLIP.html

SJTU Global Virtual Classroom Spring/Fall 2023(オンライン)

上海交通大学がパートナー校の所属学生に対して理・工・農・医および人文社会科学系分野で約15のコースをオンラインで提供するプログラムです。学生は、最大3コースに申請することができます。

対象学生	実施時期	募集時期
学部／院	コースにより異なる	12～1月／7～8月頃

詳細はこちら



https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-SJTU_GVC.html

PKU Global Open Courses 2023 Spring/Fall(オンライン)

北京大学がパートナー校の所属学生に対して中国に関連するさまざまなテーマを学ぶことのできるコースをオンラインで提供するプログラムです。学生は、最大2コースに申請することができます。

対象学生	実施時期	募集時期
学部／院	コースにより異なる	1～2月／7～8月頃

詳細はこちら



https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-PKU_GOC.html



3) 全学短期派遣プログラム（サマー・ウインタープログラム等）

概要

グローバル教育センターが実施する、全学短期派遣プログラム（すべての学部・研究科の学生が参加できる可能性がある短期留学プログラム）のメリットは、期間が短いので費用を抑えられる・プログラムによっては付属の奨学金に申請できる・様々な内容や行先のプログラムがある・より長期で専門的な留学の準備になる等があげられます。短期間の留学でも、「自分の語学力を把握できた」「積極的なディスカッションの面白さを知った」「大切な友人が世界にできた」等、長期的な収穫を得ることができます。

全学短期派遣プログラムには、以下の3種類があります。短期派遣プログラムの多くは募集期間が短く締切が早いものも多いため、TOEFL・IELTS等を予め受験し、スコアを所持しておく、参加可能なプログラムの選択肢が広がります。

グローバル教育センター担当サマープログラム

夏季休業期間中に実施されるプログラムです。東京大学が海外の協定校と連携して、東京大学の学生のために企画運営する、または協定校の既存のプログラムをカスタマイズして実施するプログラムです。内容はプログラムにより講義（語学または特定テーマ）、フィールドワーク、現地学生との交流、文化体験等様々です。募集時期は4～5月で、5月下旬頃学内応募締切、6～7月頃までに学内選考と留学開始までの手続きを行います。

グローバル教育センター担当ウインタープログラム

春季休業期間中に実施されるプログラムです。サマープログラムと同様に、東京大学が海外の協定校と連携して、東京大学の学生のために企画運営、または協定校の既存のプログラムをカスタマイズして実施されます。内容はプログラムにより講義（語学または特定テーマ）、フィールドワーク、現地学生との交流、文化体験等様々です。募集時期は9～10月で、10月下旬頃学内応募締切、11～12月頃までに学内選考と留学開始までの手続きを行います。

協定校・大学連合・国内外の機関等が主催するプログラム

上記以外にも、東京大学が加盟する大学連合や、国内外の大学・機関が実施し、東京大学の学生のために参加枠が設定されたプログラムがあります（p16参照）。



グローバル教育センター担当サマー・ウインタープログラム一覧

この一覧は近年開催したプログラムの募集要項に掲載した情報をもとに作成しています。

各プログラムについて、下記の一覧やGo Global ウェブサイトにある過去のプログラム情報および最新情報を参考に参加を検討してください。

最新情報はこちら

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short.html>



プログラム名		開催地	期間	プログラム費用 (航空賃、食費等は 別途自己負担)	募集人数	備考
サマープログラム	アジア女子大学★	オンライン(バン ラデシュ、日本)	8日間	5,000円	20名程度	講義＋ショートフィルム制作＋ 学生交流等
	シェフィールド大学	英国	3週間	1,800ポンド程度	30名程度	語学研修＋講義等＋ ホームステイ等
	ウォーリック大学★	英国	4週間	2,396ポンド程度	20名程度	語学研修＋講義等＋ ホームステイ等
	オタゴ大学	ニュージーランド	4週間	3,394ニュージー ランドドル程度	30名程度	語学研修＋講義等＋ ホームステイ等
	チュラロンコン大学	タイ	2週間	11万円	15名	フィールドワーク＋講義等
ウインタープログラム	キャンベラ・シドニーウ インタープログラム	オーストラリア	10日間	東京大学が負担	教養学部前期課程 の学生10名程度	講義＋フィールドワーク＋ 博物館訪問＋研究施設訪問＋ 学生交流等
	ハワイ大学マノア校	米国	12日間	848米ドル	最終学年ではない 学部学生15名程度	語学研修＋講義＋ 文化学習・体験＋学生交流＋ ホームステイ等
	東京大学－プリンストン 大学 合同プログラム 「環境と持続可能性」	米国	1週間	東京大学が負担	国際総合力の認定 を受けた学生	講義＋ディスカッション＋ニュー ヨーク市内のミュージアム訪問＋ラ トガース大学、プリンストン大学訪問
	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	米国	2週間	3,550米ドル程度	30名程度	講義＋フィールドワーク等
	アデレード大学	オーストラリア	3週間	3,490オーストラ リドル程度	30名程度	語学研修＋講義聴講＋ ホームステイ等
	インドネシア大学	インドネシア	2週間	10万円	30名程度	英語による講義＋文化体験等
	浙江大学★	中国	2週間	6万円程度	30名程度	中国語講座＋文化体験＋ 学生交流等

※★印のあるプログラムは、2022年度はオンラインで開催しました。

※表の青色部分に記載されているプログラムは国際総合力認定制度（p20-p23参照）が実施するもので、2018年4月以降に前期課程に入学した学部学生、2020年4月以降に学士入学（後期課程）した学部学生のみを対象としています。

協定校・大学連合・国内外の機関等が主催するプログラム例

グローバル教育センター担当サマー・ウインタープログラム以外にも、東京大学の協定校が実施するプログラムや東京大学が加盟する大学連合・国内外の機関が実施し、東京大学の学生向けに参加枠が設定されたプログラム、費用の一部を主催者が負担する海外研修や学生会議等も毎年多数実施されています。この一覧は近年開催したプログラムの募集要項に掲載した情報をもとに、代表的なプログラムを掲載しました。毎年内容が異なるプログラムもありますので、最新情報はGo Global ウェブサイトでご確認ください。

最新情報はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short.html>

プログラム名		開催地	時期	プログラム費用 (授業料・宿泊費)	募集人数	募集時期
東京大学の協定校等が実施するプログラム	Berkeley Summer Sessions	米国	5～8月の3～10週間	コースにより異なる	30名	11月～翌年1月
		カリフォルニア大学バークレー校（以下、UCバークレー）が実施するサマーセッション。毎年夏に、5つの異なる期間のセッションで、600を超える多様な分野の授業が開講されます。受講学生の多くはUCバークレーの学生ですが、全米および世界各地からも3,000名を超える学生を受け入れています。				
	UC Davis Global Study Program- Summer Sessions	米国	6～9月の6～12週間	コースにより異なる	20名	11月～翌年1月
		カリフォルニア大学デービス校がパートナー大学の学生向けに実施するThe Global Study Program (GSP)のサマーセッション。英語能力により受講コースが分かれており、関心とレベルに応じて授業を選択できます。				
	香港大学Learn, Live and Intern in China (LLIC) プログラム	香港	6～8月の8週間	奨学財団が負担	3名	1～2月
		4日間の香港大学での英語による講義と7週間のインターンシップ（上海）を組み合わせた、香港大学が実施するサマープログラム。参加者の半数は香港大学の学生、残りの半数が世界の一流大学から参加しています。授業料・宿泊料・香港－インターンシップ先の航空賃はThe Victor and William Fung Foundationの支援により無料となります（p45参照）。				
Deutschkurse- Learn German in Munich	ドイツ	8月の3週間程度	985ユーロ程度	5名	2～3月	
	ミュンヘン・ルートヴィヒ＝マクスミリアン大学 (LMU) が提供する3週間のドイツ語集中コース。文化体験も含まれ、修了した学生にはLMUの単位 (ECTS) が付与されます。					
パリ政治学院 (Sciences Po) European Studies Programme	フランス	2～3月の4週間程度	4,000ユーロ程度	10名程度	10～11月	
	日本のパートナー大学向けに開催される、EU（欧州連合）の歴史、政治、法律、経済等に関する講義やディスカッションを通して学ぶプログラム。希望者はフランス語講座も受講可能です。					
東京大学が加盟する大学連合等が実施するプログラム	IARU Courses	加盟大学	コースにより異なる	コースにより異なる	各コース若干名	12月～翌年2月
		IARU (International Alliance of Research Universities、国際研究型大学連合) は、将来の世界的リーダーを養成するトップクラスの11研究大学による、教育研究における連携推進を目的として2006年に設立された大学連合です。そのIARUに加盟する世界トップレベル大学が提供する短期留学プログラムです。 【加盟大学】 オーストラリア国立大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、シンガポール国立大学、北京大学、ケープタウン大学、カリフォルニア大学バークレー校、ケンブリッジ大学、コペンハーゲン大学、オックスフォード大学、イェール大学、東京大学				
	AUA (アジア大学連盟) が実施するプログラム	加盟大学	プログラムにより異なる	留学先大学が一部負担するプログラムも多い	若干名	随時
AUA (Asian Universities Alliance、アジア大学連盟) は、アジアの国・地域を代表する15大学で構成され、加盟大学間の連携強化を通じて、地域・世界の重要な諸課題に取り組むことを目的として2017年に設立された大学連合です。プログラムは毎年異なります。過去に開催されたプログラムの例、最新情報・詳細はGo Global ウェブサイトをご参照ください。 【加盟大学】 清華大学、北京大学、香港科学技術大学、ソウル大学校、シンガポール国立大学、チュラロンコン大学、インドネシア大学、マラヤ大学、コロンボ大学、キングサワード大学、ナザルバエフ大学、ヤンゴン大学、アラブ首長国連邦大学、IITボンベイ、東京大学						



氏名：佐武 恵梨さん

所属・学年（プログラム参加時）：経済学部経済学科4年

参加プログラム：AUA Youth Forum 2020（ナザルバエフ大学）

留学期間：2022年10月（5日間）

ナザルバエフ大学はほとんどの学生に奨学金があり、施設や教育環境も素晴らしい恵まれた機関です。今後を担う学生に惜しみなく投資するこの国の心意気を感じて日本の将来も考えさせられました。

国際交流の醍醐味が詰まったカザフスタンでの5日間

- ①プログラムを選んだきっかけ
- コロナ禍で長らく得られなかった、アジア各地からの学生と渡航して対面で交流できるプログラムに卒業前に参加したいという気持ちが強かったうえ、カザフスタンに行く機会は減多に訪れないと感じたからです。
- ②プログラムの内容
- アジア大学連盟に加盟するアジア各地の大学から学部生/院生が集まり、寝食を共にしながら、主催大学の先生の講義や、現地の観光、各国の学生が互いに発表しあう文化交流等の様々なプログラムに参加しました。
- ③プログラムを勧める点
- たった5日間のプログラムとは思えないほど、1日の内容がとても濃く、プログラムの最後には再会をかく約束するような大切な友人をアジア各地に沢山持つことのできる唯一無二の機会だと思います。

コロナ禍で長くできなかった海外渡航、並びにアジア各国の学生と同じ場所に集って時間を共有することが卒業前に出来たこと自体が本当に有意義で、直接現地に行くことや、直接会うことでしか得られない視座があることを改めて実感できました。他のアジアの国々で将来を支えようとする学生の熱意にも直接触れて、自分自身も今後も努力を重ねていきたいと改めて決意する機会にもなったほか、今後長く関係を保ちたいと思える友人がアジア各国に出来たことは心から幸せなことでした。海外を訪れること自体はいつでもできますが、多彩なプログラムを通して同世代と交流するような機会は大学にいる限られた時間しか得られないものであると強く思います。このプログラムに限らず、少しでも興味を持ったものには是非積極的に応募してみてください。

・渡航費	17万円/月	費用と奨学金
・プログラム費（宿泊費を除く）	0円/月	
・宿泊費	0円	
・その他（娯楽費・保険代等）	3万円	
・プログラム付属の奨学金	7万円/月	



氏名：千代 航平さん

所属・学年（プログラム参加時）：教養学部理科一類1年

参加プログラム：AUA Youth Forum 2020（ナザルバエフ大学）

留学期間：2022年10月（5日間）

カザフスタンと日本には意外な繋がりがあって、首都アスタナの設計をした人やナザルバエフ大学の学長が日本人なんです！カザフスタンの大学の学長と日本語で話せたのは面白い体験でした。

“行ってみたい!”から広がる最高の体験と交流

- ①プログラムを選んだきっかけ
- カザフスタンに行ける機会はこのプログラムを逃したらほとんどないだろうと思い、本プログラムを見つけたときに即座に応募を決意しました。1週間授業を休む日程でしたが、その価値があるプログラムだと思いました。
- ②プログラムの内容
- 5日間の中で、大学での講義やワークショップ、国立公園の観光、シティツアーなどを行いました。合間には何度もコーヒープレイクがあり、アジア各国から集まってきた参加者と交流する時間が多くありました。
- ③プログラムを勧める点
- 海外に興味があっても中々踏み出せない人はカザフスタンに行って帰ってくるだけでも価値がある体験になると思います。500ドルの奨学金もあり、留学費用も抑えられるので挑戦しやすいと思います。

なんとなく“面白そう”から応募したプログラムですが、最も濃厚な1週間を過ごすことができました。たった5日間の留学でしたが、最終日には1ヶ月くらいいたような気持ちになって、そこでできた友達と別れるのが本当に名残惜しかったです。英語でアジア中の人と交流できたという経験は大きな自信に繋がりました。また、首都のアスタナは現代的な都市でものすごく発展している一方発展途上の部分も見受けられて興味深かったです。大学も新しく大学内に私達が泊まったホテルや、温水プール、教授の家などありました。カザフスタンのように普段行くことのない国への留学は不安もあると思いますが、人とは違った他にはない体験をすることができ、新たな気づきを得ることができること間違いなしなので、ぜひ挑戦してみることを勧めたいです！

・渡航費	17万円/月	費用と奨学金
・プログラム費（宿泊費を除く）	0円/月	
・宿泊費	0円	
・その他（娯楽費・保険代等）	3万円	
・プログラム付属の奨学金	7万円/月	



氏名：阿部 大樹さん
所属・学年(プログラム参加時)：薬学部3年
参加プログラム：シェフィールド大学サマープログラム
留学期間：2022年8月(3週間)

英国滞在時に一つ不安だったのは悪名高い英国料理でしたが、ホストファミリーの食事はとても美味しいものでした。フィッシュ&チップスの大きさに度肝を抜かれたのも良い思い出です。

短期プログラム 体験記

憧憬と不安と共に、3週間英国へ。

①プログラムを選んだきっかけ

長期留学や海外での研究を考え始めた際に、海外へ行くのが初めてではハードルが高すぎると感じ、まずは短期のプログラムで海外での生活や英語でのコミュニケーションに慣れておこうと思って参加しました。

②プログラムの内容

シェフィールド大学で英語学習者向けに設けられた授業を受講しました。授業内ではトピックに沿ったディスカッションやスピーチ、実際に教鞭をとっている教授や講師の方の1時間程度のレクチャー等がありました。

③プログラムを勧める点

ホームステイで英国で3週間暮らすため、毎日が現地での生活の興味深い発見に溢れています。また全てのコミュニケーションを英語で行うことで、英語学習へのモチベーションや自信、課題点を得ることができます。

渡航前は海外への憧れがあった一方、踏み入ったことのない異国の地に恐怖を感じていました。そんな中で3週間英国で生活し授業を受ける経験をして、講義や街歩きで文化や常識の差に戸惑い驚愕し、ホストファミリーの話す速さに全くついていけないなどの言葉の壁に直面しながらも、自分の英語がある程度通じたことで自信や喜びを感じ、何より現地での生活を楽しめている自分自身の姿に気づくことができました。週末もロンドンで本場のミュージカルを鑑賞したり、フットボール観戦で周囲の人々の桁違いな熱量に圧倒されたりと、日本では味わえない充実感を得ることができました。この貴重な経験と思い出は、帰国してからの英語学習や、海外を視野に入れた進路設計の大きなモチベーションとなり、留学で得られた最も大きな収穫だと私は考えています。

・渡航費	33万円/月	費用と奨学金
・プログラム費(宿泊費を除く)	17万円/月	
・宿泊費	10万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	7万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	



氏名：佐々 俊之さん
所属・学年(プログラム参加時)：教養学部3年
参加プログラム：シェフィールド大学サマープログラム
留学期間：2022年8月(3週間)

他の参加者のうち何人かはコロナに感染してしまいましたが、留学先大学側の対応は「体調が戻れば学校に来て良い」というものでした。ホストファミリーはこれまでに4回も感染したそうです！

短期プログラム 体験記

「違い」を肌感じた3週間

①プログラムを選んだきっかけ

もともと全学交換留学を予定しており、本格的な留学生活を始める前に実践的な英語に触れ、また海外での留学生活に慣れたいと思い本プログラムへの参加を決めました。ホームステイというのも私にとって魅力的でした。

②プログラムの内容

午前はレベル別のクラスに分かれて4技能の英語力を鍛える授業を、午後は東京大学の学生限定の1コマ完結のオムニバス授業を受けました。水曜日の午後のみ他国・他大学の学生と共にオンライン授業を受けました。

③プログラムを勧める点

3週間現地の家庭に滞在することで、数日間海外旅行をするのとは全く異なる経験ができます。授業内容や予復習はそれほど重くないので、課外で現地の人々や他国からの留学生と交流する機会も多くありおすすめです。

今回のプログラムはコロナ禍での派遣であったこともあり、日本と英国における人々の感染症への向き合い方の違いを身をもって感じる機会になりました。これはどちらが良い悪いという話ではなく、一つの共通の問題に対して国が違えば対応が全く異なるという点が新たな気づきとして得られました。また、ホームステイでは英国現地の生活を疑似体験することができます。爪切りを貸して欲しい時、柔軟剤がどこにあるか尋ねたい時、今日は夕飯が要らないと伝えたい時等、生活の中でのリアルな会話を練習できたのが良かったです。何よりプログラム前は英語を話すことに自信がなかったのですが、プログラムが終了する頃には誰に対しても物怖じせずに英語を話すことができるようになったのは、自分の中で大きく成長した点だと思います。

・渡航費	27万円/月	費用と奨学金
・プログラム費(宿泊費を除く)	17万円/月	
・宿泊費	10万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	20万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	



氏名：中川 真璃愛さん
所属・学年(プログラム参加時)：教養学部文科三類2年
参加プログラム：オタゴ大学サマープログラム
留学期間：2022年8～9月(1ヶ月間)

温かい人々、豊かな自然がいっぱいの街、ダニーデン。毎日学び続ける1ヶ月でした。初めて海外の友達も作ることができ、英語力だけでなく1人の人間としても大きく飛躍する機会が待っています。

短期プログラム 体験記

人生のターニングポイントとなった濃密な1ヶ月

①プログラムを選んだきっかけ

異文化交流に興味がありましたが、海外経験がなく英語にも自信がありませんでした。大学生の間に一度経験したいと思っていたところ、短期間でホームステイができ英語のハードルも低いこのプログラムを見つけました。

②プログラムの内容

ホームステイをしつつ大学の語学学校に毎日通いました。土日や放課後はホストファミリーや現地学生と共に現地での生活を楽しみました。オタゴ大学で実際に開講されている講義や特別講義の聴講も含まれています。

③プログラムを勧める点

異文化交流の楽しさを強く実感すると共に、自分から英語を発することのハードルが低くなり英会話への意欲が高まりました。帰国後もそれを継続させるため、東京大学の留学生と積極的に交流をするようになりました。

人生で一番濃密な1ヶ月でした。朝はニュージーランドの新鮮な空気を吸ってから支度をして現地の学生と同じバスに乗り、語学学校で勉強をし、放課後は図書館での自習や現地学生との交流をしました。帰宅すればホストマザーが現地の美味しい食事を作って下さり、夜はリビングで英語を使って団楽の時間を過ごす、というごく普通に思える生活が、非常に貴重な経験でした。ホストマザーには積極的に関わるようにし、お菓子作りや裁縫を教えてもらったり、観光地に連れていってもらったりしました。旅行では決して味わうことのできない、生の声や文化に触れることができました。毎日書きためた日記が一番のお土産です。ホストマザーやオタゴ大学のランゲージパートナー制度で知り合った現地学生とは帰国後も交流を続け、日本で再会することもできました。

・渡航費	18万円/月	費用と奨学金
・プログラム費(宿泊費を除く)	15万円/月	
・宿泊費	15万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	15万円	
・奨学金	0円	



氏名：中川 果帆さん
所属・学年(プログラム参加時)：工学部4年
参加プログラム：ウォーリック大学オンラインサマープログラム
留学期間：2022年9月(2週間)

私たち学生は発言の際にI thinkを多用していたため、これを使うと指摘があり言い換えてから進むというルールが発動しました。おかげで多様な表現を身につけることができました。

短期プログラム 体験記

英国文化と英語運用をバランスよく。海外留学の一端に触れる。

①プログラムを選んだきっかけ

海外留学に興味があり、語学力の向上を目的として探していました。そこで大学院入試後に参加でき、中級者向け、かつ英国文化と英語運用をバランスよく学ぶことができる本プログラムへの参加を決めました。

②プログラムの内容

毎日90分の授業で、前半は音楽や教育、政治をはじめとする英国文化を学び、後半は関連した調べ学習や議論、その発表をしました。授業時間外には2人1組で決めたテーマについて調べ、最終日に発表しました。

③プログラムを勧める点

大学での講義内容に加え、英語運用にも重点が置かれたプログラムです。語学力と英国文化についての知識をバランスよく身につけたい人に最適です。オンライン実施のため、まとまった期間がとれなくても参加できます。

受講生専用のウェブサイトで動画や記事から知識を得、クイズやエッセイに取り組み、さらに調べ…と多様な形で英語に浸る濃密な2週間でした。講義では、日頃詳しく学ぶことが少ない英国の歴史や文化遺産、政治など、幅広く触れました。その中で日本と英国を比較し多くの違いを知り、他分野に対してさらなる知的好奇心が湧きました。また、Tutorからの不意な質問やチームでの議論の機会が多く、最初は緊張しました。しかし抑揚やフレーズ、構成を学び、練習を重ねると、徐々に発言の瞬発力が向上することを実感しました。コミュニケーションはしっかりと、学習に集中できる点がオンラインの魅力です。この一連の流れ全てを英語のみの環境で実践することで、日本での活動が続けながら十分に英国を味わうことができました。

・渡航費	0円/月	費用と奨学金
・プログラム費(宿泊費を除く)	約9.2万円/月	
・宿泊費	0円	
・その他(娯楽費・保険代等)	0円	
・奨学金	0円	

4) 国際総合力認定制度(Go Global Gateway)

国際総合力認定制度「Go Global Gateway」は、すべての東京大学学部学生の国際的な学習や交流の機会への参加を後押しする制度です。東京大学は「世界の多様な人々と共に生き、共に働く力」を国際総合力と名付け、大学生活を通じてすべての学生にこの力を伸ばしてもらいたいと考えています。本制度では学生のみなさんが国際総合力を身につけるためにどのような学びや体験が必要かを考え、行動に移し、所定の条件を満たした場合、国際総合力を身につけたものとして認定証を授与しています。「Go Global Gateway」は単なる語学の堪能さや表層的な外国理解ではなく、異文化や他者について深く考える教養と洞察力を身につけるきっかけとなるものです。本制度を通してみなさんが国際感覚を養い、活躍の場を広げられることを願っています。



対象者：2018年4月以降に前期課程に入学した学部学生および2020年4月以降に学士入学(後期課程)した学部学生全員



国際総合力を構成する5つの要素
「国際総合力」は左の図の5つの要素から構成されます。みなさんには、在学中に5つの要素をバランスよく身につけて、世界の多様な人々と共に生き、共に働く人へと成長していただきたいと思います。

- Go Global Gatewayのポイント**
- ★すべての学部学生が登録する制度です。
 - ★個人の能力に対して優劣をつけるものでも、単位として認定されるものでもありません。
 - ★学内外・国内外における様々な活動への参加が認定の対象となります。
 - ★自分だけのポートフォリオ(活動履歴)を作成することができます。
 - ★認定証を大学院進学や就職活動の際に活用することができます。
 - ★語学検定試験(IELTS、TOEFL iBT等)の受験料が補助されます。
 - ★短期海外留学プログラムを実施しています。
 - ★認定者限定のイベントやプログラムを開催しています!





東京大学国際総合力認定制度のウェブサイトへアクセス

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-gateway/ja/index.html>

認定までの流れ

I	Go Global Statementを提出しよう 在学中にどのようなことに挑戦し国際総合力を身につけたいか、目標を設定しよう。
II	アクティビティに取り組もう Go Global Gatewayの認定対象となる4つのカテゴリーのうち、3つ以上のアクティビティに取り組もう。
III	ポートフォリオを作ろう アクティビティ参加後はレポートを提出し、自分だけのポートフォリオを作ろう。
IV	認定申請レポートを提出しよう 4つのうち3つ以上のカテゴリーのアクティビティレポートが承認されたら、認定申請レポートを提出しよう。

Go Global Gatewayの4つのアクティビティ

1. 外国語学修	2. 授業・コース
・外国語に関する前期課程修了要件の必要単位(基礎科目の外国語および総合科目L系列)の取得(必須) ・第三外国語科目の単位取得	・東京大学で行われる講義の単位取得 ・MOOCsの修了 ・サマープログラムやウインタープログラム等の修了
3. 海外経験	4. 国際交流活動
・留学プログラムの修了 ・ボランティア、フィールドワーク、インターンシップ 等 ・Go Global Gateway主催の短期海外プログラム(認定者対象のものを含む)	・母語以外で開催される講演会やイベントへの参加 ・国際交流イベントの運営や企画 ・日本国外で行われる東京大学のPR活動参加、協力 ・その他ボランティア、インターンシップ等国内で行われ国際交流活動と認められるもの

Go Global Gatewayが主催するイベント・プログラム

留学経験のある先輩方や留学生、国際的に活躍する方々を招いた講演会や交流会



オンラインワークショップや映画上映会、海外大学の学生との交流イベント



氏名：金出 大和さん
所属・学年（認定証取得時）：農学部3年
認定証取得年：2022年

オンライン空間から広がった世界

①Go Global Gatewayへの参加を決めた理由

国際的に活躍できることの重要性が今後増していくと考えられる中で、活動の幅が広がる大学生の間に国際総合力を高めていきたいと考えたからです。様々な国際交流の場が提供されることに加えて、参加したアクティビティを記録として残せることも魅力的でした。

②認定を受けるまでに取り組んだアクティビティの中で特に印象に残っているものや学びが得られたもの

大学2年次に、夏はカナダにあるサイモンフレイザー大学へ、冬はロシアのサンクトペテルブルク大学へのオンライン留学を経験しました。サイモンフレイザー大学では英語の学習に加えて、留学期間中に行われたカナダの選挙に関することや先住民の歴史などについての講義を受け、カナダの文化やカナダの社会が抱える問題について学ぶことができました。サンクトペテルブルク大学ではロシア語の学習の他に文化に触れることもできました。最終授業の前にはウクライナ侵攻が始まり、現地学生の平和への思いを聞いたことも非常に印象的でした。いずれも視野が広がる充実した体験でした。

③今後取り組みたいこと、認定証をどのように活用していきたいか

今後はこれまでに参加したことのない国際的なカンファレンスや、大学入学以降に活動が制限されていた海外での活動に取り組みたいです。認定証は過去の活動を振り返ったり、これから行う活動の記録を残したりするツールとして活用していこうと考えています。また、大学生活で行ったことの証明として活用できる場面でも利用していきたいです。



氏名：上田 萌加さん
所属・学年（認定証取得時）：教養学部理科二類2年
認定証取得年：2021年

身近な国際交流から、世界も自分も知る機会に

①Go Global Gatewayへの参加を決めた理由

国際交流の経験を積む手段として活用したいと考えたからです。Go Global Gatewayが掲げている国際総合力に共感し、主体的に考えて取り組む中で磨いていきたいスキルだと感じました。情報収集・きっかけ作り・レポートに残していくことが可能といった点に魅力を感じ、参加を決めました。

②認定を受けるまでに取り組んだアクティビティの中で特に印象に残っているものや学びが得られたもの

夏休みのGo Global Gatewayのオンライン英会話のプログラムとオリンピックボランティアの活動が印象的でした。認定のために取り組んだ活動ではありませんでしたが、小さな活動も記録するよう心がけていました。英会話では、コロナ禍で海外に行けない中でも毎日スピーキングを練習しながら世界を知ることができました。また、ボランティアでは、英語を使って関係者をおもてなしする活動内容で、チームメンバーからの刺激も大きかったです。活動前のゴールと活動後の達成度を振り返り、自分の学びを言語化することで、自分を見つめ直し、目標をアップデートし続けることができています。

③今後取り組みたいこと、認定証をどのように活用していきたいか

認定証取得の過程で、自分を振り返る機会となったので、今後も目標を持って行動する際に、客観的な自己分析を習慣化していきたいです。そうすることで、国際総合力を生かして交換留学などでの目標達成を最大化したり、それらの経験を国際総合力の向上に還元したりできると思います。認定証は、大学時代に取り組んだ国際的な活動をまとめるツールとして活用し、ポートフォリオの更新も続けていきたいと考えています。



氏名：徳永 紗英さん
所属・学年（プログラム参加時）：教養学部理科一類1年
参加プログラム：ベルリン自由大学ウインタープログラム（2019年度）

「当たり前」を相対化する、ドイツの人々との交流

①プログラムへの参加を決めた理由

プログラムの大テーマとして掲げられたジェンダー問題を始めとする、政治・歴史・多様性などの社会の諸問題について、異文化に身を置いて現地の人々と議論しながら学ぶことで、日本での「当たり前」を問い直したいと思い応募しました。ドイツ語は未習でしたが、レベル別のドイツ語学習の授業がある点も魅力的でした。

②プログラムの内容

平日の午前中は、ベルリン自由大学の教員によるドイツ社会についての授業やレベル別のドイツ語の授業を受講しました。午後はフィールドツアーや関連施設への訪問など、よりアクティブな形式での学習を行うことが多かったです。放課後や休日は、街へ出て博物館等を訪れ、ドイツ文化を肌で感じました。そして、最終日には2週間の学びの総括として、英語でプレゼンテーションを行いました。また、プログラムを通じて現地の学生と交流することができました。

③プログラムを勧める理由

プログラムでは、毎朝固いパンとチーズを食べ、電車に乗って通学したりするなかでドイツの当り前の日常に溶け込んでいきました。また、他方で強制収容所のあった地を訪れた際には衝撃を受け、その絶え間ない日常と非日常との交錯を通じて多くの学びを得ました。更に、そのなかで湧き起こる思いや疑問について、現地の学生と意見を交わし、学びを深めることができました。特に、現地の学生とは授業中のみならず、放課後もベルリンの街を案内してもらうなど、濃密な時間を過ごしました。同年代の学生との交流も含めた学びは、旅行では味わえない、大学のプログラムならではの魅力でした。



氏名：松浦 知希さん
所属・学年（プログラム参加時）：教養学部文科一類1年
参加プログラム：アジア女子大学オンラインサマープログラム（2022年度）

南アジアのファーストジェネレーションから学ぶ

①プログラムへの参加を決めた理由

今日世界が直面し、私自身も興味があったジェンダーをめぐる課題について、それらが顕著に残存している南アジアの同年代の女性と学び合える点と、ビジュアルエスノグラフィーの手法を使い、ジェンダーの問題についてインタビューや動画制作を通して自分なりの切り口から考察することができる点に魅力を感じ参加しました。

②プログラムの内容

アジア女子大学（以下AUW）の学生は熱意に溢れており、先生の質問に対して積極的に自分の意見を述べていました。私は彼女らがプログラムの最終課題として作成した動画から、南アジアでは父親から大学に行くことを助けてもらえない若い女性がいるということ、タクシー運転手という、日本では女性が就いても特に不思議に思われない職業に女性が就くことが難しいことなどを知り、ジェンダーの問題が根強く残っているのだと実感しました。そのような地域で大学に行ける女性は少ないため、大学に行く機会の得られたAUWの学生は、女性の地位を向上させる責任と期待を担って、あらゆる活動に対し真剣に、最大限に自分の能力を発揮して取り組んでいるのだと感じました。私自身、彼女らを見習ってあらゆる機会を無駄にしないよう努力しようと思いました。

③プログラムを勧める理由

ジェンダーの問題やエスノグラフィーに関する知識があまりなくとも、先生方が男女共同参画やその根本的な問題点について教えてくださる上、他の学生が男女不平等についてどのように考えているのかを知ることができる等、意義のある学びを得られます。ジェンダーを可視化するための動画制作では、私の場合は東大の女性助教に直接インタビューさせていただき、大学の助教としての苦悩という本人にしかわからないことについて詳しく教えていただきました。日本でも男尊女卑の思考がいまだに残っています。普段あまり意識することのないジェンダーの問題について深く考えるとても貴重な機会となると思います。

2. 留学・国際交流プログラム (その他のプログラム)

1) GLP-GEfIL 東京大学グローバルリーダー育成プログラム

GLP-GEfIL (Global Education for Innovation and Leadership) は、国際社会における指導的人材の育成を目的とした学部学生対象の特別教育プログラムです。GLP-GEfIL では、プログラムの一環として、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラム等に、修学中に2回参加する機会を設けています。また、海外派遣にあたっては、協賛企業の寄付による奨学金(地域、期間等に応じて最高100万円まで)を支給します。

GLP-GEfIL は、語学力や意欲等により選抜された学生が履修できます。学部2年生(PEAK学生は1年生)を対象に、年度に1回、選抜を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。

[GLP-GEfILウェブサイト] <http://www.glp-u-tokyo.ac.jp>
[facebook] <https://www.facebook.com/UTokyo-Glp-GEfIL-東京大学グローバルリーダー育成プログラム-589069901189419/>



第8期履修生認定式&オリエンテーションの様子 (Nov,2022)

GLP-GEfIL 海外プログラム派遣先例 (2023年度)

プログラム名	開催地	期間
Nanyang Technological University, Singapore	シンガポール	6～7月 4週間
Stanford Summer International Honors Program (SSIHP)	米国	6～8月 8週間
Harvard Summer School	米国	6～8月 6週間
Yale Summer School (YSS)	米国	5～8月 5週間
University of British Columbia, Vancouver Summer School	カナダ	6～8月 4週間
Pembroke Cambridge Summer Programme	英国	7～8月 6週間
LSE Summer School	英国	6～8月 8週間
Oxford: International Politics Summer School, St. Antony's College	英国	7～8月 2週間
University College London	英国	6～8月 6週間
Geneva Summer Schools	スイス	6～7月 3週間
Ludwig Maximilian University of Munich	ドイツ	7～8月 4週間
RWTH Aachen University, Engineering Summer School	ドイツ	6～8月 4週間
Aalto University Summer School, Finland	フィンランド	7～8月 3週間
HEC Paris Summer School	フランス	6～7月 4週間
Leiden University Summer Schools	オランダ	6～7月 4週間

※上記はGEfIL履修生を対象として2023年度に提供予定の海外プログラムの一部です。詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.glp-u-tokyo.ac.jp/gefil/abroad/>

GLP-GEfIL の概要

- 1 **GEfIL 実践研究** : 学生自身が関心を持つ地球規模の問題を対象に、創造的・学術的な研究プロジェクトを設計・実施していくことを目標とします。
- 2 **GEfIL 海外プログラム** : 3年次および4年次に、世界トップレベルの大学の厳選された海外プログラムやインターンシップ、海外でのボランティア活動に参加します。
- 3 **グローバルリーダー 講義** : 世界の第一線で活躍しているビジネスリーダー、起業家、国際的専門家を迎えて行う講義とワークショップです。
- 4 **GEfIL 共通講義** : GLP-GEfIL の主幹メンターによるインタラクティブなオムニバス講義です。グローバルな課題に取り組むためのアカデミック・スキルの獲得を目指します。

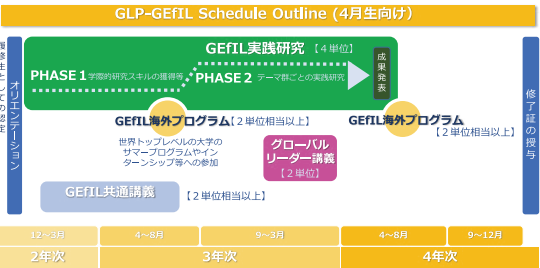
協賛企業

東京大学グローバルリーダー育成プログラムの海外派遣の奨学金は、趣旨にご賛同いただいた下記の企業様の支援によって実現しています。

株式会社IHI、旭化成株式会社、アステラス製薬株式会社、エーザイ株式会社、江崎グリコ株式会社、ABB株式会社、大塚製薬株式会社、JFEホールディングス株式会社、塩野義製薬株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン、住友商事株式会社*、住友生命保険相互会社、住友不動産株式会社、ソニーグループ株式会社、ソラミツ株式会社、武田薬品工業株式会社、公益財団法人Tazaki財団**、東海旅客鉄道株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、東レ株式会社、日本たばこ産業株式会社、日本調剤株式会社、野村證券株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、富士電機株式会社、株式会社三井住友銀行、三井不動産株式会社、株式会社三菱ケミカルホールディングス、三菱重工業株式会社、三菱電機株式会社、株式会社LIXIL(2023年4月現在)

*住友商事株式会社は、東京大学GLPリーディング・パートナーです。

**公益財団法人Tazaki財団は東京大学GLPに委託型奨学金支給を行っています。



GLP-GEfIL
ウェブサイトに
アクセス



2) 教養学部前期課程 主題科目「国際研修」および後期課程「後期国際研修」

主題科目「国際研修」および「後期国際研修」は、学生が異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現場を体験し、グローバルな視野を養うことを目標とする授業です。授業内容としては、(1) 海外教育機関との共同プログラム、(2) 現地の学生との合同見学・合同実習等を含む短期の海外研修、(3) 海外の学生との合同国内研修等様々な活動があります。そのような機会によって得られる成果が単位(通常2単位)として認定されます。本授業の多くは、S2ターム(夏休み)・A2ターム(春休み)期間中に実施されますが、その他S1-2/A1-2セメスター期間に日本にて実施される国際研修や、渡航前に、通常のセメスター／ターム中に事前研修を実施する場合もあります。2022年には、3年半ぶりに海外渡航型国際研修が再開しました。

「国際研修」「後期国際研修」の受講にあたっては、海外渡航経験の有無は問いません。むしろ、学生にとってのはじめての海外経験を、後押しする科目です。進んで自分の視野を開こうとする、学生の積極的な参加姿勢がのぞまれます。但し、授業によっては、参加者の選抜を行った、ある水準以上の語学力、専門性を求めたりする場合があります。学生が負担する費用や奨学金の有無等は、授業によって異なるので、詳細はそれぞれの授業のシラバスを参照し、全体および個別ガイダンスで説明を受けてください。全体ガイダンスはA／Sセメスター開始直後に実施されますので、Global Komabaのウェブサイトに掲載されるスケジュールをご確認の上、是非ご参加ください。

Global Komabaのウェブサイトにアクセス



<https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/outbound/program/globalpraxis/>

「国際研修」「後期国際研修」過去の実施例

講義題目	研修地
UTokyo Summer Internship Program in Kashiwa	日本
国際研修(中国語サマースクール)・上級中国語北京研修	日本・中国(2023年渡航再開予定)
ソウル大学校韓国語研修サマープログラム・韓国朝鮮事情の理解と交流	韓国(2023年渡航再開予定)
中国語トライリンガルプログラム生向け台湾研修	台湾
実践的国際人権法・人道法入門	スイス
TLPドイツ語夏季研修	ドイツ
イタリアで考古学を体験する	イタリア
TLPフランス語夏季／春季研修	フランス
平和のために東大生ができること	カザフスタン・トルクメニスタン(2022年度は日本)
変容するメキシコと日本	メキシコ
多文化共生社会の課題を英語で学ぶオーストラリア研修	日本
日本の伝統文化とその変容・発展を英語で学ぶ体験型学習	日本
グローバルヘルス入門・グローバルヘルス入門演習	日本・米国(2023年はタイ渡航予定)

※上記の授業の開講は年度によって変更される場合があります。

グローバルヘルスシリーズで開催！
グローバルヘルス入門(岩手・東京)/入門演習(米国)/入門演習(東京・長崎)(2023年Sセメスターはプラネタリーヘルス日本・タイ研修を実施予定)

2021年度より国際研修の新たな試みとして、普段授業などで接することの少ない留学生(日本国内外に滞在)、PEAK(教養学部英語コース)受講生と日本人学生が、日本を軸足に、海外に出て、グローバルやプラネタリーヘルスという地球規模課題について考察し学ぶ、フィールド体験型国際研修を開講しています。異なる言語・文化背景を有する学生が、連続して東京、岩手、カリフォルニア(サンフランシスコ)、長崎、(2023年度は奄美大島とタイにて実施予定)にて、SDGや地球規模課題・グローバルヘルスに関する座学だけでなく、外交や開発援助の最前線で活躍する実務者との対話・セミナーへの参加、日本や海外の他校の公衆衛生大学院生や博士課程生等と共に講義やグループワークに参加、フィールドで、医療・看護・福祉活動を行う実務者やサービスを受けている受益者と直接対話し、現場で学ぶ体験型の演習授業です。



- ①2022年6月に実施した岩手県一関市藤沢町国民保険藤沢病院前(地域包括医療について学ぶフィールド実習)
- ②留学生・日本人学生が共に行うクラスでのグループディスカッションの様子
- ③2022年9月にカリフォルニアサンフランシスコでのチャイナタウンチャレンジにてフィールドワーク中の学生等
- ④サンフランシスコ大学のキャンパスにて現地学生との文化交流
- ⑤UCバークレー校の留学生とキャンパスで交流活動

3) 体験活動プログラム・海外企業体験活動

① 体験活動プログラム

体験活動プログラムは、学部学生および大学院学生のみなさんが今までの生活と異なる文化・価値観に触れ、さまざまな体験を通じて多様な人々と出会い、未知なるものを知ろうとすることで、知の探究を進める力を身に付けることができるプログラムです。

フィールドは海外で働くOB・OG訪問等の国際交流体験、院内学級における学習支援等のボランティア、北海道の農場・牧場作業等の農林水産業や地域体験、学内研究室での研究体験等、多岐にわたっています。海外で実施する体験活動プログラムの多くは、夏季・春季休業期間を中心に、1週間～1ヶ月程度活動を行い、みなさんの活動を支援するために交通費および宿泊費の一部をサポートする奨励金を支給します。自由な時間を利用して、積極的に参加してください。

今年度実施するプログラム、過去に行われたプログラム報告書については体験活動プログラムのウェブサイトをご参照ください

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>



国際交流 2022年度体験活動プログラム一覧

主な活動場所	時期	期間	プログラム名称
中国(北京市・上海市)	3月	10日	中国訪問+キャンパスツアーと学生交流
韓国(ソウル)	8月	8日	大学・企業・文化体験 in韓国2022年 ー韓国を知る、韓国から日本を見るー
シンガポール	2～3月	9日	シンガポールでビジネスを学んでみよう
英国(オクスフォード・その他)	8～9月	1ヶ月	TOPS2022(Tokyo Oxford Programme of Summer 2022)
英国(ロンドンおよび近郊)	2月	5日	英国ロンドン、海外で働くとは
イタリア(ベネチア)	9月	15日	VE_italia-Veneto Experience
スウェーデン(ストックホルム)	9月	8日	スウェーデン王立工科大学(KTH)での体験活動 日本語授業サポートと学内企業訪問
サウジアラビア(リヤド)	3月	8日	サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動
アラブ首長国連邦・アブダビ首長国・ドバイ首長国	9月	10日	アラブ首長国連邦の「いま」
米国(ボストン)	8月	10日	ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション
米国(ケンブリッジ)	1月	5日	GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT
米国(シカゴ・ワシントンDC)	8月	7日	アメリカで仕事をするこの素晴らしいさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう
米国(ニューヨーク・ソルトレイクシティ)	8月	10日	米国ニューヨーク・ソルトレイクシティ近郊における国際交流・研究体験活動
米国(ニューヨーク)【オンライン】	9月	7日	グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方【オンライン】
米国(ニューヨーク)	8～9月	5日	グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方【渡航】
カナダ【オンライン】	8月	3日	日本からカナダへー留学と就職を通してカナダのマルチカルチュアリズムを体験するー
米国(プリンストン)	8～9月	15日	Sustainable agriculture experience at Organic Farm(USA)
米国(リッジフィールド)	8～9月	15日	ニューイングランド有機農場でのCommunity Supported Agriculture体験(米国)
米国(サンフランシスコ)	8月	7日	シリコンバレーハイテク企業社員の生の声を聞く国際交流体験
ベトナム(ハノイ)	8月	7日	ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる!～ハノイの学生・企業等との交流(訪問先はオーダーメイドで調整可能)～

※上記プログラムは2022年12月現在のものです。実施調整中のものもあります。また2023年度は実施しないプログラム、上記に記載のないプログラムもありますので、必ず学内説明会、およびウェブサイトで最新情報を確認してください。
※体験活動プログラムは国際交流体験だけではなく、ボランティア、就労体験、農林水産業・地域体験、フィールドワーク、研究室体験等、様々な活動を含みます。上記表は国際交流体験のみの抜粋です。



① ニューイングランド有機農場(米国) ② アラブ首長国連邦
③ ハーバード大学医学部研究室訪問 ④ 韓国

● SNS上にて、修了生の体験記事を連載記事にして掲載しています。こちらも併せてご参照ください。

【Twitter】 <https://twitter.com/Utokyotaiken>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/199334930268654/>

※学生の所属は、活動当時のものです。

② 東大生海外体験プロジェクト(海外企業体験活動)

「海外企業体験プロジェクト」は、経済界等で活躍する卒業生が、「留学する環境に恵まれた一部の学生だけでなく、より多くの学生に、積極的に海外体験をしてほしい」という理念により、自発的に寄附募集活動を進めている「東大生海外体験プロジェクト」の支援を受けた活動の一つです。

学部前期・後期課程の学生を対象とし、海外のオフィスや、海外で活躍する日本人の業務を実際に間近で見ることで、人生のグローバルキャリア形成を考えるきっかけとなるプログラムを実施しています。

活動場所は米国、ヨーロッパ。世界各国にオフィスを構える日系企業で、多様な業務(マーケティング、システムデザインマネジメント、法務等)の体験を通して自分の専門知識やスキルを試す機会もあります。

この夏、海外の企業に飛び込んで視野を広げてみませんか。

以下は2019年度の実施内容です。2023年度の実施内容については、ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h001.html>



● 海外企業体験プロジェクト プログラム一覧

GROHE AG(ドイツ) 9月(2週間)／Rakuten USA, Inc.(米国) 8月(9日間)

● 応募締切・活動実施時期

応募締切:5月中旬(4月中旬からウェブサイト上で募集開始)／活動時期:8～9月の1～2週間程度

● 協力

株式会社LIXIL、楽天株式会社、東京大学基金「東大生海外体験プロジェクト」

● 参加者への経済的支援

往復渡航費、現地宿泊費、現地移動費等一人あたり上限50万円 ※航空券、宿泊施設は大学で指定します。
卒業生による寄附募集活動「東大生海外体験プロジェクト」による寄附金を原資に、活動に関する経済的な支援が行われます。

海外企業体験プロジェクト参加者の声

GROHE AG(ドイツ)

教養学部3年 森岡 桃子さん

デュッセルドルフにあるGROHE AG本社の人事部にて、現地の労働者組織「Workers council」の調査を行いました。社員の方とのインタビューを中心に、工場見学や研修制度への参加など様々なことに取り組ませて頂いたり、休日には旅行に行ったりと充実した2週間でした。楽しいことばかりではなく苦しかったことも沢山あります。社員の方と英語でのコミュニケーションが上手とれなかった日の帰り道、悔しくて泣きながら歩いたことは一生忘れません。2度と体験できないような思い出と、尊敬できる方々との出会いと、自分の「殻」を破るきっかけくれた大切なプログラムになりました。



Rakuten USA, Inc.(米国)

(Project1: EC経営戦略業務の体験)

教養学部文科三類2年 福島 海さん

Rakuten USAの経営戦略本部にてEC市場の拡大施策を学び、実際の社内会議にも参加させて頂き、多くの社員の方々と交流する機会を頂きました。将来のキャリアを考える上で、数多くの社会人と交流を重ね、ビジネスの現場を目で確かめ、肌で体感する、という経験は非常に肝要です。今回のプログラムは舞台が海外であり、日本企業とも異なる貴重な体験をさせて頂きました。3・4年生はもちろんのこと、就職活動が本格化する前の1・2年生には是非参加し、キャリアの選択肢を広く持つきっかけにしたいと思います。



Rakuten USA, Inc.(米国)

(Project2: 米国企業内法務の体験)

法学部3年 新倉 仁美さん

Rakuten USAでの企業体験では、現代のビジネスに対する理解を深め、また日本の社会を相対的に捉えることができ、貴重な経験となりました。体験の内容としては、配属された内部監査部にて普段の業務を実際に体験したり、10以上の異なる部署の方々にインタビューをしました。内部監査部という会社のガバナンスを担う部署から、会社全体を俯瞰して見ることで、今世界を動かしているIT企業がどのように価値を生み出し、どのような課題を抱えているのか理解することができました。将来社会に出る上で、社会・世界に対する視点をより豊かにしてくれたと感じています。



※学生の所属は、活動当時のものです。

4) 東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム(UGIP)

東京大学グローバル・インターンシップ・プログラム(UGIP)は、2019年度、世界で活躍できるグローバル人材の育成のため、ビジネスの最前線を体感できるプログラムとしてスタートしました。2022年度現在、ダイキン工業(株)とソフトバンク(株)の2つが受入先となっていますが、今後、新たな受入先企業が追加される可能性もございます。内容やスケジュールについては各企画ごとに異なります。【応募資格(抜粋)】学部または大学院修士課程の学生
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/ugip.html>

情報については変更される場合があります。
事前説明会やウェブサイトにて、今年度実施するプログラムや最新情報を確認してください。



参加者への経済的支援(2022年度)

ダイキン工業(株)企画
米国、タイへの往復航空券、現地2週間の宿泊ホテル代はダイキン工業が全額負担。食事代や土日(自由時間)の交通費は一定額を支給。
ソフトバンク(株)企画(連携:Findability Sciences Inc.)
ハッカソン企画における上位入賞者の海外渡航費について、航空券、宿泊ホテル代は受入先が全額負担。
※経済的支援の内容は企画ごとに異なります。
既存企画の支援内容も、変更される場合があります。



タイ：販売店における市場調査



米国：国連本部訪問

プログラム参加者の声

●2022年度ダイキン工業(株)企画参加者
「社会課題には教科書的な正解では全く歯が立たないと実感。今学んでいる教育社会学でも、机上の空論に終わらない、その先に繋がる研究をしたい。」「東京で思い浮かべていたタイ市場と実際に訪れた現場は全く違うもので、グローバル企業で働くことの難しさや現地で実際にユーザーと触れることの大切さを身に染みて感じた。」「環境問題がビジネスの世界では、日常世界よりもシリアスに捉えられていて、かつ大きなビジネスチャンスだと捉えられていることは大きな驚きでした。」「出会った人達は、本当に魅力的な人ばかり。ダイキンのみなさんには、学生の立場からは想像もつかない経験や能力を持ちながらも、時に屈託なくプライベートな話題もしてくださり懐の深さを感じた。また、様々なバックグラウンドを持つ優秀な仲間に出会え、私自身の視野も大きく広がりました。」

●2021年度ソフトバンク(株)企画参加者
「データ分析コンペティションの第一歩を踏み出せたことが、この活動を通して得た最も大きな成果であったと感じました。(中略)今後もデータ分析に関するコンペティションに参加するモチベーションになりました。」

2022年度実施企画

Global Business Experience by DAIKIN
世界170カ国に展開するグローバルNo.1空調メーカー“ダイキン工業”の海外拠点に身を投じ、激変するグローバルビジネスを経験。国内での事前学習と海外現地でのリアルな経験を通じ、「北米でのカーボンニュートラル実現」「アジアZ世代向けマーケティング」等の実課題に対し提案をまとめ、最終報告会で発表しました。

集え 次世代のグローバルAI人材!
実社会のデータでAI活用ハッカソン(ソフトバンク(株))
SDGs達成を実現するための2つの重要課題の中で、「AIを活用して課題解決するサービスやビジネスアイデア」を立案してモックアップを作成。ハッカソンの最後には英語でプレゼンを実施しました。(上位入賞者・チームは2023年度の海外現地インターンに無料招待)

(参考)2022年度の実施スケジュール (D)=ダイキン工業(株)企画/(SB)=ソフトバンク(株)企画

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(D) 応募期間 事前説明会	(D) 書類選考 面接選考	(D) 合格者説明会 国内事前学習等	(D) 海外 渡航	(D) 報告会 報告書	(SB) AI勉強会の定期開催			(SB) 応募期間 事前説明会	(SB) ハッカソン期間 プレゼン大会		

5) 学内でできる国際体験

東京大学では100以上の国と地域出身の約5,000名の留学生在が学んでいます。留学の準備や国際交流の機会として、キャンパス内での国際体験を活用しましょう。以下に一例を紹介します。

グローバル教育センターによる国際交流活動の例

グローバル教育センターでは、様々な国際交流活動を実施しています。

(1) 本郷キャンパス

留学生との交流を目的として、留学生支援室では言語交換プログラム、中国語茶話会等を実施しています。また、国際交流を目的としたキャンパス内の学生活動の情報提供等も行っています。詳細は以下の「留学生支援ウェブサイト」でご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/life-interact-ac.html>



(2) 駒場キャンパス

留学生とともに日本伝統芸能の鑑賞や文化体験をするイベントから、ダンス・スポーツイベントまで、様々な国際交流の場を提供しています。また駒場IIキャンパスでは、国際交流を目的としたInternational Gatheringを開催しています。このほか、新入留学生を対象とした駒場キャンパスツアーのガイド等、積極的な交流の機会を提供しています。詳細はGlobal Komabaウェブサイトでご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp>



(3) 柏キャンパス

柏キャンパスで学ぶ留学生、外国人研究者およびその家族と1対1で交流するための「1対1交流プログラム」や「言語交換プログラム」を始め、日本人構成員と外国人構成員が学び合うためのイベントを定期的に行っています。また、英語学習支援として、英会話講座や英語相談オフィスアワー、英語論文執筆のためのワークショップ等、様々なプログラムを提供しています。詳細は以下よりご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/kashiwa.html>



International Lounge (IL)

ILは、東京大学の学生および教職員の方に多文化国際交流を楽しんでいただくために、工学系研究科国際工学教育推進機構の国際教育部門が主催するイベントです。学期中の毎週金曜日12:10～13:10に、工学部11号館の2階(T-Loungeおよび2階テラス)で開催されます。東京大学で学ぶ留学生と日本の学生が集まり、リラックスした雰囲気の中で専門や国を超えて交流しています。趣味の話題から突っ込んだ議論まで気軽におしゃべりを楽しんでください。年に数回、楽しい季節のイベントも開催しています。英語、日本語、その他の言語で語り合いながら友達を作りたい方、国際交流に興味のある方、新しい人に出会うチャンスです！本郷キャンパスでちょっと身近な国際交流をしてみませんか。参加の事前登録は必要ありませんので、どうぞお気軽にご参加ください。開催スケジュールや場所については、右側のURLからご確認ください。



Facebookにアクセス



<https://www.facebook.com/groups/423122758435246/>
<https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ja/activities/icyou/>
<https://global-eng.t.u-tokyo.ac.jp/program/il.html>

グローバル教養科目(グローバル教育センター提供)

2023年度に新しく始まる「グローバル教養科目」は、後期課程(3/4年)以上のすべての学生が履修できる、英語による授業です。学生のみなさんは、留学生とともに、国籍や専門分野の枠を超えて、世界の喫緊の課題を英語で議論することができます。とりあげるテーマはジェンダー、ダイバーシティ、健康、貧困、GXなどのSDGsに関連するものが中心となる予定です。授業は少人数のインタラクティブ形式で行われ、学生のみなさんにアクティブラーニングの機会を提供します。変容を続ける国際社会で、存在感を示すことのできるアサーティブなスキルを持つ人材の養成を目指しています。詳しくはUTAS(東京大学の学務システム)をご覧ください。



(2023年度から開始のため写真はイメージです)

グローバル化ゼミ(総合文化研究科・教養学部)

グローバル化ゼミでは、駒場キャンパスで学ぶみなさんが、国内外で様々な国際経験を積めるようサポートする活動を行っています。活動の大きな柱は、海外を知る、海外で学ぶ、国際交流の三つです。様々な国や地域、そこで暮らす人々や生活、社会などについて広く見識を深めたい学生には、毎年数回、様々な分野で活躍する国際経験豊かな専門家を招聘し、カジュアルな講演会やセミナーを開催しています。国際交流に興味がある学生には、留学生や日本人学生が共に参加できる交流型イベントやワークショップを開催しています。もっと主体的に、留学生と関わりたい学生は、英語プログラムで学ぶPEAK1年生や交換留学生を学習面、生活面でサポートするGO Tutorとして活躍する機会があります。活動は主にグローバル化ゼミのラウンジで行います。年に2回程度、新メンバーを募集していますので挑戦してみてください。海外留学に興味のある学生には、留学相談、TOEFL/IELTS説明会、留学成果発表会等を開催しています。教職員や学生留学アドバイザーが学期中、個別の留学相談にも応じています。また大学の交換留学プログラムで海外留学が内定した駒場に所属する学生を対象に留学前研修を実施しています。これらのイベント、プログラム、活動に興味を持った方はグローバル化ゼミのTwitterをチェックしましょう。



Twitterにアクセス



<https://twitter.com/UTokyoKomabaGO>

Global Studies Program

Global Studies Programは、教室での学びを通してアカデミックな国際交流の実践力を養うためのプログラムです。教養学部後期課程の学融合(学科横断型)プログラムの一つですが、提供されている科目は他学部の後期課程の学生も受講が可能です。「グローバル教養実践演習」では海外の学生とのディスカッション、グループワーク等を通して共同演習を行います。他にも幅広い内容の授業が主に英語で開講され、留学生と共に学ぶことができます。教室以外でも、交換留学生を交えてディスカッションの場を設けたり、卒業生や政府・民間機関で活躍されている方のお話を聴く企画等を実施しています。授業以外のこれらイベントは学部・学年を問わず全ての学生が参加できます。文化の多様性、多文化が進む現代において、他者や異文化に対して創造的に開かれた眼差しを獲得し、対話力を鍛えることの重要性はますます高まっています。このプログラムでは、文化的・社会的背景の異なる学生たちが共に学び、活動する場を提供することによって、国際的な視野を身につけ、多言語、多文化の中で活躍できる人材の育成を目指します。留学を考えている学生にもそうでない学生にも、駒場キャンパスにいながらブレ留学体験ができる場ともなっています。



Facebookにアクセス



<https://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/academics/fas/joint-program/gs/>
<https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/outbound/gs/>
<https://www.facebook.com/Global-Studies-in-Komaba-110316410401132/>

スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)

スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)は、工学系研究科国際工学教育推進機構が主催する、英会話に慣れたい・英語力を向上させたいという東京大学の学生・職員向けのプログラムです。日常会話・プレゼンテーション・ディスカッション・TOEFL対策等様々なコースがレベル別に提供され、比較的低価格で受講できます。複数の英語学校から経験豊かな講師を招き、毎年Sセメスター(4月募集)とAセメスター(10月募集)に8～10週間ずつ本郷キャンパスで放課後に開講しています。みなさんも週1～2回、集中して英語に取り組んでみませんか。自分で英語を話すアウトプットの機会がない、そのために英語で言いたいことがなかなか言えないといったことに悩んでいる方には、特にお薦めです！SELによって、みなさんが本来持っている英語の潜在能力が発揮できるようになります。キャンパス内で気軽に受講できるSELに、ぜひご参加ください。



詳細はこちら



<https://global-eng.t.u-tokyo.ac.jp/program/sel/index.html>

UTokyo Amgen Scholars Program

Amgen Scholars Programは、未来の科学者・イノベーターの育成を目的として、主に医学・生命科学系分野を専攻する学部学生を対象に、世界24の大学・機関において実践的・専門的・集中的な研究体験の場を提供する夏季インターンシッププログラムです。東京大学の学生は、東京大学のみでなく、京都大学・シンガポール国立大学・清華大学で開催されるプログラムにも応募することができます。いずれのプログラムでも、意欲ある学生達が集まり、積極的に研究活動に取り組んでいます。(使用言語:英語) 東京大学プログラム参加者は、期間中全員が同じ宿舎に滞在し、医・工・理・農・薬・生研の大学院/研究所の研究室に所属して最先端の研究に携わり、また研究発表や小旅行など様々なイベントに参加します。そしてプログラム終了後には、4大学合同シンポジウムに参加して、研究発表を行ったり、他大学プログラム参加者と交流する機会があります。実施時期は6月上旬～8月上旬、募集時期は11月1日～翌年2月1日の予定です。

UTokyo Amgen Scholars Program



https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/amgen_program.html



Amgen Scholars Asia Program



<https://www.amgenscholars.com/asia-program>

UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC)

——海外学生と共に学ぶ国際交流プログラム

UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC) は、グローバル教育センターが提供する海外の学生向けの短期受入プログラムです。世界中の優れた学生を対象に本学教員が英語で講義を行います。下記の受講要件等を満たせば、東京大学の学生も参加することができます。受講を終えた学生にはグローバル教育センターが発行する「グローバル・ユニット」が付与されます。UTokyo GUCは東京大学の魅力が世界に発信するとともに、東京大学の学生が世界の学生とともに学ぶ機会を提供します。

- **＊グローバル・ユニットとは？**
国際総合力認定制度 (p20参照) の活動として利用可能
Certificateを発行 (ユニット数とA/B/C/D/F等の成績明示)
1ユニット:1回90分×10回=15時間、0.5ユニット:1回90分×5回=7.5時間
※グローバル・ユニットは学部・研究科が提供する通常の単位とは異なります。
また、卒業要件等には使用できません。

- **期間** 2023年6月第3週目から7月 (各コース1〜2週間)
- **開講コース数** 12コース (対面10・オンライン2)
開講コース及びシラバスはUTokyo GUCウェブサイトを確認する事
<https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/guc.html>
- **受講料 (東京大学の学生の場合)**
対面コース1ユニット:15,000円/0.5ユニット:7,500円
オンライン・オンデマンドコース1ユニット:5,000円/0.5ユニット:2,500円
- **受講要件等 (東京大学の学生のみ)**
 - ・国際総合力認定制度に登録すること
 - ・受講にあたって、正規授業の妨げにならないこと
- **応募** 応募の詳細については、Go Globalウェブサイト等で周知する
<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-oncampus-guc.html>
<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/en/program-oncampus-guc.html>
- **対象** 海外の大学に在籍する学生・東京大学の学生
- **その他**
 - ・主に学部学生を対象とするが、大学院生の受講も妨げない
 - ・受講生は、応募書類による審査を経て決定される
 - ・受講が決定した学生は、修了証を取得できるよう必ず最後まで講義に参加すること



最新情報ははこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/guc.html>



6) 各学部・研究科の取り組み

①学部・研究科間交換留学 協定校一覧

各学部・研究科が独自に行っている「学部・研究科間交換留学」の協定校一覧です。プログラムへの応募方法、最新情報等は各学部・研究科の担当部署で確認しましょう。

※ (M) は修士のみ、(D) は博士のみ

国・地域	協定校	対象
法学政治学研究科・法学部		
中国	北京大学法学院	院
中国	北京大学国際関係学院	学部/院
韓国	ソウル大学校法科大学院	院
ベルギー	ルーヴェン・カトリック大学法学・犯罪学部	学部/院
医学系研究科・医学部		
台湾	国立台湾大学医学部	学部
韓国	ソウル大学校医学科	学部
シンガポール	シンガポール国立大学医学部	学部
米国	ジョンスホプキンス大学医学部	学部/院
米国	ペンシルバニア大学医学部	学部/院
米国	ミシガン大学医学部	学部/院
米国	ハワイ大学医学部	学部
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクスミリアン大学医学部	学部
スウェーデン	カロリンスカ研究所	学部/院
工学系研究科・工学部		
台湾	国立中山大学理学院・工学院	学部/院
中国	西安交通大学	学部/院
中国	大連理工大學	学部/院
中国	同済大学院 ※新領域と担当	学部/院
中国	北京交通大学	学部/院
香港	香港理工大學建設・環境学部	学部/院
インド	インド工科大学マドラス校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学ハイデラバード校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学カラグプール校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学キャンブル校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学デリー校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学ボンベイ校 ※情報理工と担当	院
インド	インド工科大学ルールキー校	学部/院
インド	インド経営大学院バンガロール校 ※情報理工と担当	院
韓国	ソウル大学校工科大学	学部/院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学 建築・都市計画学院 清華大学 建築学院[AMU] ※新領域と担当	院 (M)
タイ	アジア工科大学院	院
タイ	チュラロンコン大学工学部 ※対象専攻・学科限定	学部/院
タイ	タマサート大学国際工学部 (SIIT)	学部/院
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校理科大学	学部/院
トルコ	中東工科大学工学部	学部/院
トルコ	イスタンブール工科大学理工学部	学部/院
カナダ	マクマスター大学	学部/院
米国	マサチューセッツ工科大学 ※対象学科限定	学部
米国	カリフォルニア大学 (全校)	学部/院
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	学部/院
オーストラリア	クイーンズランド工科大学理工学部	学部/院

国・地域	協定校	対象
オーストリア	ウィーン工科大学	院
オーストリア	グラーツ工科大学	学部/院
デンマーク	デンマーク工科大学	学部/院
フィンランド	アールト大学 (旧:ヘルシンキ工科大学)	学部/院
フランス	ソルボンヌ大学 (旧:ピエール・エ・マリー・キュリー大学 (パリ第6大学)) 工学部	学部/院
フランス	セントラルスープレック (旧:エコール・セントラル・パリ)	学部/院
フランス	エコールアトランティック (旧:エコール・デ・ミン・ド・ナント)	学部/院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校 (INSA Lyon)	学部/院
フランス	エコール・ミン・パリ	学部/院
フランス	エコール・デ・ボン・パリテック (ENPC)	学部/院
フランス	航空宇宙高等学院 (ISAE)	学部/院
フランス	国立民間航空大学校 (ENAC)	学部/院
フランス	エコール・セントラル・リヨン	学部/院
フランス	トロワ工科大学	学部/院
フランス	パリ・サクレ大学	学部/院
フランス	コンピエーニュ工科大学	学部/院
フランス	サヴォア・モンブラン大学	学部/院
フランス	パリ・スッド大学 (パリ第11大学)	学部/院
フランス	ボルドー大学	学部/院
ドイツ	シュツットガルト大学	学部/院
ドイツ	カールスルーエ大学	学部/院
ドイツ	ミュンヘン工科大学 (TUM)	学部/院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学	学部/院
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学エランゲン・ニュルンベルク工学部	学部/院
ドイツ	アーヘン工科大学数学、コンピューターサイエンス及び自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源およびマテリアル工学部・電気および情報学部 ※理学系と担当	学部/院
ドイツ	ウルム大学 ※理学系、情報理工と担当	学部/院
ドイツ	ブランデンブルク工科大学	学部/院
ドイツ	ワイマール・パウハウス大学土木工学部	院 (M)
ドイツ	ルール大学ボーフム機械工学部	学部/院
イタリア	トリノ工科大学 ※情報理工と担当	学部/院
イタリア	ミラノ工科大学	学部/院
イタリア	聖アンナ大学院大学バイオロボティクス研究所 [GSDM]	学部/院
オランダ	デルフト工科大学機械・海洋・マテリアル工学部	学部/院
オランダ	トエンテ大学	学部/院
ノルウェー	ノルウェー工科大学自然科学大学	学部/院
ロシア	サンクトペテルブルグ国立大学マネージメントスクール	学部/院
スペイン	マドリッド工科大学建築学部	学部/院
スペイン	バレンシア工科大学	学部/院
スウェーデン	チャルマース工科大学	学部/院
スウェーデン	ルレオー工科大学	院 (M)

国・地域	協定校	対象
スウェーデン	リンシェピン大学理工学部 ※情報理工と担当	学部/院
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学理工学部[GME]	学部/院
スイス	スイス連邦工科大学ローザンヌ(EPFL)	学部/院
EU	ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学[AUSMIP] ※新領域と担当	学部/院(M)
人文社会系研究科・文学部		
中国	山東大学儒学高等研究院・韓国研究中心	学部/院
中国	北京大学歴史学系 ※総合文化と担当	院
中国	北京大学中国語文学系 ※総合文化と担当	院
中国	北京大学哲学宗教学系 ※総合文化と担当	院
香港	香港中文大学文学院	学部/院
韓国	ソウル大学校人文大学	院
イラン	テヘラン大学	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユール	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユール(リヨン校)	院
フランス	パリ第7・ディドロ大学 ※総合文化、数理科学と担当	学部/院
フランス	パリ第8大学 ※総合文化と担当	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学(歴史文化学部、他) ※総合文化と担当	学部/院
ドイツ	ゲオルグ・アウグスト大学ゲッティンゲン ※総合文化と担当	学部/院
イタリア	ピサ高等師範学校	院
英国	カーディフ大学	学部/院
理学系研究科・理学部		
韓国	ソウル大学校自然科学大学	院
チリ	マガジャネス大学	学部/院
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	学部/院
米国	カリフォルニア大学	学部
ベルギー	ゲント大学理学部	学部/院
チェコ	南ボヘミア大学水産・水系保護研究院	学部/院
フランス	国立工学研究センター(ENSICAEN)	学部/院
フランス	パリ南大学	学部/院
フランス	ボルドー大学ポールバスカル研究センター	学部/院
ドイツ	アーヘン工科大学数学、コンピューターサイエンスおよび自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源およびマテリアル工学部・電気および情報学部 ※工学系と担当	学部/院
ドイツ	ウルム大学 ※工学系、情報理工と担当	学部/院
ドイツ	ハイデルベルク大学バイオサイエンス学部／ハイデルベルクバイオサイエンス国際大学院	学部/院
ドイツ	ライプニッツ大学ハノーバー 自然科学研究科	学部/院
イタリア	フェラーラ大学物理学・地球科学部	学部/院
イタリア	ペルージャ大学物理・地質学科	学部/院
ロシア	サンクトペテルブルグ国立大学	学部/院
ロシア	ロモノーソフ記念モスクワ国立大学	学部/院
スウェーデン	ルネオー工科大学コンピュータ科学・電子・宇宙工学部	学部/院
農学生命科学研究科・農学部		
台湾	国立台湾海洋大学	学部/院
台湾	国立中興大学獣医学院	学部/院
台湾	台北医学大学栄養学部	学部/院
台湾	国立屏東大学科技獣医学院	学部/院
台湾	国立台湾大学生物資源農学院	学部/院
中国	中国農業大学	学部/院
中国	東北林業大学	院
中国	南京農業大学	学部/院
中国	南京林業大学	院

国・地域	協定校	対象
中国	北京林業大学	学部/院
中国	西南大学	学部/院
中国	海南大学農林学院	学部/院
中国	浙江農林大学	学部/院
中国	福建農林大学	学部/院
中国	河南科技大学	学部/院
インド	タミルナードゥ農業大学	学部/院
インドネシア	ボゴール農科大学(IPB)	学部/院
インドネシア	ムラワルマン大学	学部/院
インドネシア	ランブン大学農学部	学部/院
韓国	ソウル大学校農業生命科学大学	学部/院
韓国	ソウル大学校獣医科大学	学部/院
韓国	釜慶大学校水産科学大学	学部/院
韓国	釜慶大学校環境海洋科学大学	学部/院
マレーシア	マレーシア・サバ大学	学部/院
モンゴル	モンゴル生命科学大学(旧:モンゴル農業大学)	学部/院
モンゴル	モンゴル国立大学	学部/院
スリランカ	ルフナ大学	学部/院
タイ	カセサート大学獣医学部・農学部・林学部	学部/院
タイ	コンケン大学農学部	学部/院
タイ	チェンマイ大学	学部/院
タイ	チュラロンコン大学	学部/院
ベトナム	ベトナム国立農業大学	学部/院
ベトナム	カントー大学	学部/院
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	学部/院
フランス	アグロパリテック(旧:パリーグリニョン国立農学院)	院
ドイツ	カールスルーエ工科大学	学部/院
ドイツ	ボン大学開発研究センター	院
イタリア	マルケ工科大学	学部/院
ポーランド	クラクフ農科大学	学部/院
スウェーデン	スウェーデン農科大学	学部/院
経済学研究科・経済学部		
米国	ブランダイス大学	学部
フランス	HEC経営大学院(HEC Paris)	学部/院
ドイツ	デュースブルク・エッセン大学東アジア研究所	院
ドイツ	フランクフルト大学経済・経営学部	学部/院
スウェーデン	ストックホルム・スクール・オブ・エコノミクス(SSE)	学部/院
英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)社会・歴史学部	学部
総合文化研究科・教養学部		
台湾	国立政治大学歴史学系	院
台湾	国立政治大学台湾史研究科	院
中国	華東師範大学思勉人文高等研究院	院
中国	中山大学国際関係学院	院
中国	北京大学歴史学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学中国語文学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学哲学系宗教学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学元培学院(東アジア藝文書院(EAA)「東アジア教養学」プログラム)	学部
韓国	韓国外国語大学校日本大学	学部/院
シンガポール	シンガポール国立大学理学部	学部
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校附属人文社会科学大学	学部/院
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校附属日越大学	院
米国	ニューヨーク大学大学院総合文化研究科	院
カザフスタン	アルファラピカザフ国立大学東洋学部	学部/院

国・地域	協定校	対象
フランス	パリ大学(旧:パリ第7・ディドロ大学) ※人文社会系、数理科学と担当	学部/院
フランス	パリ第8大学 ※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	ベルリン・フンボルト大学	学部/院
ドイツ	マルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学第一哲学部	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学(歴史文化学部、他) ※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	ユストゥス・リービヒ大学ギーゼン社会科学・文化学研究科、メディア論研究センター	学部/院
ドイツ	ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ人文学部	学部/院
ドイツ	トリア大学第二学部、第三学部	学部/院
ドイツ	ゲオルグ・アウグスト大学ゲッティンゲン社会科学部 ※人文社会系と担当	学部/院
イタリア	トレント大学統合生物学センター	学部/院
ロシア	ロシア国立人文大学	学部/院
スペイン	セビリア大学哲学部	学部/院
英国	エセックス大学	学部
教育学研究科・教育学部		
スウェーデン	ストックホルム大学教育学部	学部/院
薬学系研究科・薬学部		
中国	瀋陽薬科大学	院
米国	テキサス大学M.D.アンダーソンがんセンター	院
ドイツ	ボン大学リサーチ・チトレーニンググループ1873	院
スウェーデン	イエテボリ大学S.A.アカデミー	院
数理科学研究科		
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユールリヨン数学科	院
フランス	パリ第7・ディドロ大学 ※人文社会系、総合文化と担当	院
ロシア	国立研究大学高等経済学院(HSE)	院
新領域創成科学研究科		
中国	同済大学院 ※工学系と担当	院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学 建築・都市計画学院 清華大学 建築学院[AMO] ※工学系と担当	院(M)
韓国	韓国科学技術院(KAIST)工学研究科	院
ブラジル	ペルナンブコ連邦大学	院
ブラジル	サンタカタリーナ連邦大学	院
ブラジル	パラナ連邦工科大学	院
コロンビア	エアフィト大学	院
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	院
オーストリア	ウィーン工科大学	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校(INSA Lyon)	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユールリヨン	院
フランス	エコール・セントラル・ドゥ・ナント校	院
フランス	ジャンモネ大学	院
フランス	クロード・ベルナル・リヨン第一大学	院
フランス	フランス国立パリ建築大学ヴァル・ド・セヌ校	院
ドイツ	ボン大学開発研究センター ※農学系と担当	院
英国	インペリアルカレッジロンドン工学研究科化学工学専攻	院
ノルウェー	スタヴァンゲル大学ビジネススクール	院
ノルウェー	ノルウェー工科大学自然科学大学	院
スウェーデン	チャルマーズ工科大学	院
EU	ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学[AUSMIP] ※工学系と担当	院(M)
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)	院

国・地域	協定校	対象
情報理工学系研究科		
インド	インド工科大学マドラス校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学ハイデラバード校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学カンプール校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学デリー校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学ボンベイ校 ※工学系と担当	院
インド	インド経営大学院バンガロール校 ※工学系と担当	院
タイ	チュラロンコン大学工学部、理学部	院
オーストリア	ウィーン工科大学(VUT)	院
デンマーク	デンマーク工科大学(DTU)	院
フィンランド	アールト大学(旧:ヘルシンキ工科大学)	院
フランス	エコール・スーペリユール EA(ESIEA)	院
フランス	セントラルスープレック(旧:エコール・デ・ミンド・ナント)	院
フランス	IMT Atlantique(旧:エコール・デ・ミンド・ナント)	院
フランス	パリ・サクレー高等師範学校(旧カシャン高等師範学校)	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校(INSA Lyon)	院
フランス	ソルボンヌ大学	院
ドイツ	ミュンヘン工科大学(TUM)	院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学(TUD)	院
ドイツ	ウルム大学 ※工学系、理学系と担当	院
イタリア	トリノ工科大学 ※工学系と担当	院
ノルウェー	ノルウェー工科大学自然科学大学(NTNU)	院
スウェーデン	リンシェピン大学理工学部 ※工学系と担当	院
情報学環・学際情報学府		
韓国	ソウル大学校社会科学大学言論情報学科	院
公共政策学連携研究部・教育部		
中国	北京大学国際関係学院(PKU-SIS)	院
韓国	ソウル大学校国際大学院(SNU-GSIS)	院
シンガポール	シンガポール国立大学リー・クワンユー公共政策大学院(LKY-SPP)	院
ブラジル	ジェトゥリオヴァルガスビジネススクール(FGV)	院
米国	コロンビア大学国際公共政策大学院(SIPA)	院
米国	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)ラスキン公共政策大学院公共政策学科	院
オーストラリア	オーストラリア国立大学(ANU)クロフォード公共政策大学院	院
デンマーク	コペンハーゲン大学社会科学研究科	院(D)
フランス	パリ政治学院(Sciences Po.)	院
フランス	HEC経営学院(HEC Paris)	院
ドイツ	ヘルティエ・スクール(Hertie School)	院
ドイツ	ハイデルベルク大学 The Graduate Programme for Transcultural Studies (GPTS)	院
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス(LSE)	院
英国	ロンドン大学キングスカレッジ社会科学公共政策研究科	院
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)	院

※2023年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。覚書の更新や取扱いの検討等により調整中につき掲載されていない協定校があること、掲載されていても当該年度に交換留学を実施しない場合もあることに注意してください。

※担当学部・研究科ごとに取扱いが異なるため、詳細は担当学部・研究科に確認してください。

②各学部・研究科によるプログラム

海外武者修行 (工学系研究科・工学部)



工学系研究科・工学部では、学生が海外の大学・研究機関を訪問するための渡航費支援の取り組みとして、「海外武者修行」を実施しています。参加学生は、自分で海外の著名な研究室への訪問をアレンジし、自分の研究成果について発表を行います。各分野の一流の専門家からレビューを受けることにより、当該分野の国際コミュニティにおける自分の研究の立ち位置を確認し、研究へのモチベーションを高めると同時に、国際共同研究のきっかけを掴むことが期待されています。

これまでオックスフォード大学やマサチューセッツ工科大学をはじめとする世界各国の大学・研究機関の研究室への派遣実績があり、参加学生にとっては、海外の研究現場を肌で感じることで、今後の研究やキャリアについても考えを深めることができる貴重な機会となっています。

海外武者修行へチャレンジしたい方は、工学系研究科・工学部学生用情報ポータルサイトの通知を参照してください。

対象学生:工学系研究科・工学部の学生(詳細は募集要項を参照)
実施期間:募集要項にて確認
応募方法:募集要項に従って期日までに応募書類を提出する
お問い合わせ先:工学系・情報理工学系等事務部国際推進課国際交流チーム
outbound.t@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

国際交流促進プログラム (農学生命科学研究科)



本プログラムは、留学を通じて国際的な経験と知識を身につけ、より深く、かつ幅広い研究活動の発展に資することを目的とし、奨学金の支給により海外の大学、研究所・研究機関等への留学を応援します。本プログラムにより、若い時期に多様な専門分野の研究に参画することで、海外における最先端の研究手法や当該分野での人脈の獲得、国際的な人的ネットワークの形成等が期待され、また英語でのコミュニケーション能力の向上も期待されます。

本プログラムは、1.自らの自由な発想で留学計画を組み立てられる
2.留学先・研究内容等の自由度が比較的高いプログラムである
3.主に海外留学を経験したことのない者を優先する を特色としています。詳細については、本研究科のウェブサイトを参照してください。

対象学生:農学生命科学研究科に在学する大学院学生
実施期間:2023年7月～2025年3月(予定)のうち3ヶ月～1年
応募方法:書類審査
URL:https://www.a.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:農学系教務課学生支援チーム(学生生活担当)

詳細はこちら



理学部学生国際派遣プログラム(SVAP) (理学部)



本プログラムでは、選抜された理学部学生を研究実習(インターンシップ)や短期講座受講(サマースクール等)のため海外の大学や研究機関に派遣しています。学生は興味のある分野の研究を行っている海外の教員や研究者に自力でコンタクトを取り、インターンシップの受入許可を得るか、参加したい海外プログラムを見つけ応募等の必要な手続きを行った上でSVAPに応募します。書類審査と英語による面接を経て採択された場合は、自分で渡航計画を立て理学部の経済支援のもと海外での研究や講座受講を体験します。これまでの派遣生は、様々な大学や研究機関へ渡航し、充実した研究や学修の体験を得て帰国しました。

https://www.facebook.com/UTokyo.SVAP/

ハードルの高いプログラムですが、その分、プログラムへの参加を経て大きく成長することができます。また、自分で行き先も期間も決められる自由度の高さも好評です。

対象学生:理学部学生ならびに理学部に内定している推薦入試入学者
実施期間:5月～翌年3月の間の2週間～2ヶ月間程度(応募者自身が決定)
応募方法:応募書類提出(派遣の前年度の1月下旬または2月上旬頃締切)
URL:https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/offices/ilo/svap/application.html
お問い合わせ先:理学部学務課国際チーム
intl.s@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

東京大学リベラルアーツ・プログラム (総合文化研究科・教養学部)



リベラルアーツ・プログラム(LAP)は、教養教育を海外へ発信し、学生交流を通じてグローバルな視野と総合的判断力を備えた人材の育成を目指す教育交流プログラムです。中国の南京大学と連携し、(1)毎年3月に学部1、2年生を南京に派遣してフィールドワークとグループ討論を行います(1週間派遣)。(2)毎年8月に南京大学で中国語の特訓サマースクールを実施し、中国語履修の学部2年生を派遣します(3週間派遣)。(3)毎年Aセメスターに南京大学の学生を日本に招き、東京大学の学部生とともにフィールドワークとグループ討論を行います(1週間)。(4)中級レベル以上の中国語履修者を対象に、中国社会文化研修「深思北京」を、中国人民大学と連携して、秋に開講しています(1週間派遣)。詳しい紹介と参加者の体験談はLAPのウェブサイトをご覧ください。意欲的な学生の参加を期待します。

対象学生:主に学部学生が対象だが大学院学生も参加可
専攻・学年の別は問わない

実施期間:上記参照
応募方法:レポート審査もしくは面接
URL:http://www.lap.c.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構国際連携部門

詳細はこちら



赤十字国際委員会地域事務所インターンシッププログラム (総合文化研究科・教養学部)



総合文化研究科・教養学部と赤十字国際委員会(ICRC)との協定に基づき、教養学部4年生、または総合文化研究科修士課程2年生をICRCインドネシア・東ティモール地域事務所に2～3ヶ月間インターンとして派遣するプログラムです。学生はインターンとしてICRCの政策に関する諸領域(国際人道法・プロテクション・研修・アドボカシー)においてICRCが有する豊富な知見に触れ、理解を深め、同事務所が展開する事業の実践的な業務補助を行います。国際法や国際情勢、国際機関等について勉強・研究する学生に、実践を通して学術的な学びを補完するプログラムであり、将来国際機関、国際法、平和構築、紛争解決等の分野で活躍したい学生にその実践的な機会を提供するものです。具体的な派遣時期・期間は、教養学部・総合文化研究科からの学生の推薦を受けてICRCインドネシア事務所が決定します。

対象学生:教養学部4年生、または総合文化研究科修士課程2年生
実施期間:2～3ヶ月間(受入部署との協議により決定)
応募方法:応募書類提出。書類・面接審査により選考
お問い合わせ先:総合文化研究科・教養学部 国際交流センター国際研究協力室
irco-komaba@adm.c.u-tokyo.ac.jp

海外大学院とのダブル・ディグリー・プログラム (公共政策学教育部)



公共政策学教育部(GraSPP)は、東京大学の大学院の中で最も留学生比率の高い大学院であり、学生数の約半分を留学生が占めています。またGraSPPには、充実した留学プログラムがあり、現在、14大学と交換留学やダブル・ディグリー・プログラム(DD)を行っています。ダブル・ディグリー・プログラムとは、東京大学で1年、海外の協定校で1年学ぶことによって最短2年で二つの大学からそれぞれ学位を取得することができるプログラムです。詳細についてはGraSPPのウェブサイトを参照してください。

対象学生:公共政策学教育部の専門職学位課程学生
実施期間:交換留学は1学期から1年、ダブル・ディグリーは1年
応募方法:プログラムの募集要項に従って、期日までに指定の書類を提出する
URL:https://www.pp.u-tokyo.ac.jp/en/student-activities/double-degree-program/
お問い合わせ先:公共政策学教育部国際交流担当
exchange.j@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

詳細はこちら



ユネスコ・バンコク事務所インターンシッププログラム (教育学研究科)



教育学研究科と国連教育科学文化機関(ユネスコ)バンコク事務所・アジア太平洋地域教育局(以下、ユネスコ・バンコク事務所)の協定に基づき、教育学研究科に所属する学生をユネスコ・バンコク事務所に数ヶ月間インターンとして派遣するプログラムです。学生はインターンとして、国際的な教育に関する諸領域(政策、実践、調査研究等)においてユネスコが有する豊富な知見に触れ、理解を深め、ユネスコ・バンコク事務所が展開する事業の業務補助を行います。学生の国際感覚を鍛える実践的なプログラムとなっており、教育や教育分野における自らのキャリアについて、国際的な視点から考える機会となることが見込まれます。具体的な時期・期間・受入部署は、教育学研究科から学生の推薦を受けてユネスコ・バンコク事務所が決定します。本プログラムの詳細は、教育学研究科学生支援チームのウェブサイト(学内限定)を参照してください。

対象学生:教育学研究科に在学する大学院学生
実施期間:9月以降に開始し、4ヶ月以上6ヶ月間(受入部署との協議により決定)
応募方法:書類・面接審査により選考
お問い合わせ先:教育学研究科国際交流室・学生支援チーム

〈特設コラム〉グローバル教育センター



グローバル教育センターは、東京大学のグローバル教育の全学的なプラットフォームとなるために、2023年4月に設立されます。グローバル教育センターは、すべての学生のみなさんが、その国際性を高め、「グローバル・シチズン」として鋭敏な国際感覚を持つ人材に育つことを目指し、次の4部門を設けます。

国際支援部門



国際総合力認定制度(p20)、学生のみなさんの英語力強化、留学生の生活相談や就職支援などを行います。

国際交流部門



全学交換留学を含む短期・超短期の学生交流(p6-19)、国際活動プログラム、UTokyo GUC(p32)などを通じ、学生のみなさんに国際体験の場を提供します。

国際教育部門



SDGsなど世界的な課題を英語で学ぶ少数人授業「グローバル教養科目」(p30)を開講します。後期課程(3/4年)以上のすべての学生が履修できます。

日本語教育部門

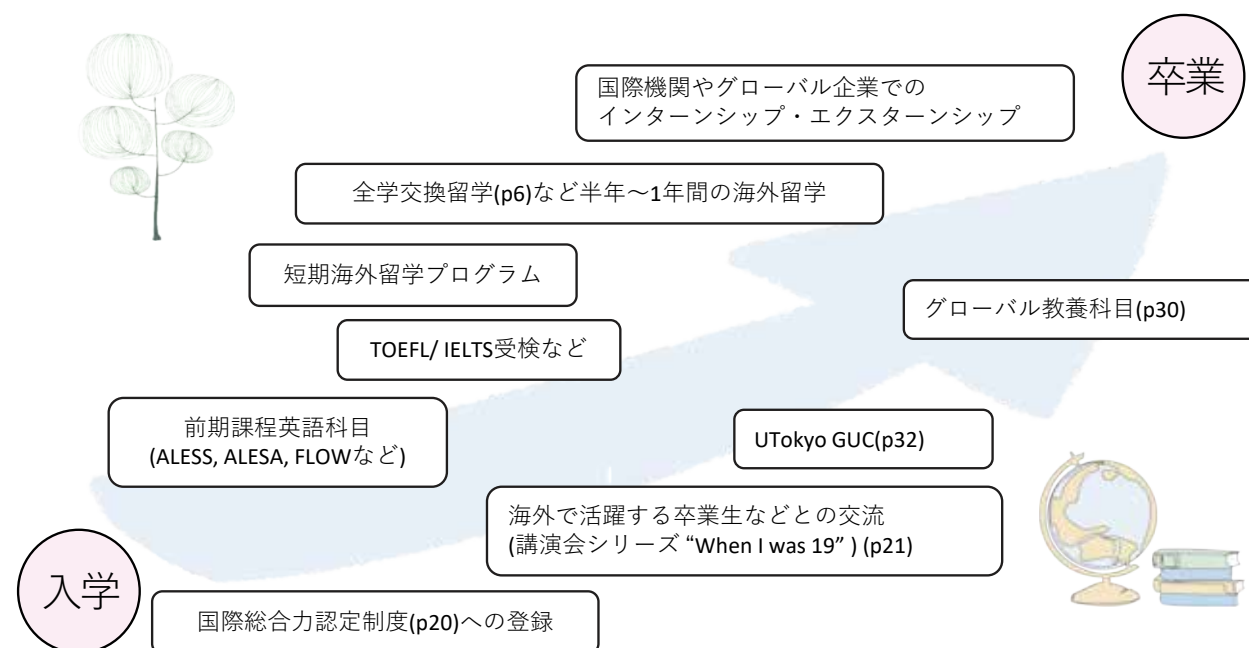


オンライン化を進め、すべてのキャンパスの留学生、外国人研究者等が受講しやすい日本語講座を提供します。



グローバル教育センターは、学生のみなさんが文化の壁、価値観の壁、言語の壁を開き、「多様性の海」へと漕ぎ出す対話力を身につけた人材になることを目指します。入学から卒業までの全期間を通じてグローバル・シチズンシップ教育を行うプラットフォームとして機能します。

目指せ、グローバル!～入学から卒業まで～



II

留学・国際交流関連情報

p39-53

1. 情報収集方法 p40-41
2. 留学にかかる費用と奨学金 p42-45
 - 1) 費用と奨学金例 p42-43
 - 2) 支援者からのメッセージ p44-45
3. 留学における学籍・単位認定 p46-47
4. 語学能力検定試験 p48
5. 安全と危機管理 p49
6. 留学と就職活動 p50
7. 卒業後の大学院留学 p51
8. よくある質問 p52-53

1. 情報収集方法

有意義な留学・国際交流の成否はどれだけ情報収集を行ったかで左右されると言っても過言ではありません。以下のようなツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。

東京大学全体・グローバル教育センターのプログラムの情報

①Go Global ウェブサイト

留学プログラムや奨学金、安全管理等について本ガイドブックよりさらに詳細な情報や最新情報が掲載されています。また、過去にグローバル教育センターのプログラムに参加した学生の体験記も読むことができます。経験者の生の声を参考にしましょう。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>

Go Global ウェブサイトに
アクセス



②Go Global公式SNSアカウント

グローバル教育センターからの直接の発信で、留学プログラムや奨学金関連の最新情報をお知らせします。以下のアカウントをフォローすれば、有益な情報をリアルタイムで得ることができます。



SNSアカウントをフォロー



③留学・国際交流関連イベント

グローバル教育センターでは大規模な春の留学フェア、秋の留学説明会に加え、年に数回、小規模な留学プログラム・海外インターンシップ等の説明会を開催しています。説明会は担当者やプログラム参加者の話を直接聞くことができるよい機会です。また、海外大学や各国大使館等が主催する留学関連イベントも開催されているので目的に応じて積極的に参加しましょう。説明会・イベントの情報は①Go Global ウェブサイトや②Go Global 公式SNSアカウント等で紹介しています。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/top-events.html>

イベント情報を
確認する



2019年4月に開催した留学フェアの様子。様々なプログラムの説明を受けたり、ブース出展団体との個別相談、プログラム参加者との交流ができたりする、貴重な機会です。

④Facebookグループ「Todai Go Global Network」

東京大学の在学学生・教職員・卒業生が留学・国際交流に関する情報を交換できるFacebookの非公開グループです。参加にあたっては本学関係者であることの認証手続きが必要です。詳細はGo Global ウェブサイトを確認してください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-search-fb.html>

グループに参加する



⑤留学情報問い合わせ窓口(学内向け)

留学情報問合せ窓口では、海外留学に関する一般的な情報提供およびグローバル教育センター主催のプログラムに関する東京大学の学生からの質問に対応します。詳細等はウェブサイトからご確認ください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-icenter.html>

詳細を確認する



各学部・研究科の情報

各学部・研究科独自の留学・国際交流プログラムについては、各学部・研究科のポータルサイトや掲示板、窓口等で情報が得られます。また、留学の際の東京大学での学務上の注意点(留学中の授業履修・単位・学籍等)も各学部・研究科によって異なるので、必ず申請前に担当部署へ確認するようにしましょう。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-department.html>

各学部・研究科の連絡先一覧
にアクセス



個人で参加する留学の情報

留学プログラムには、東京大学が募集するもの以外にも、海外の大学や民間の留学業者等が募集するプログラムもあります。また、留学プログラム以外にも、海外で行う活動としてインターンシップやボランティア等が海外企業、大学、国際機関等で実施されています。これらの内容・時期・期間は多岐に渡るため、みなさんの希望に合うものもきっとあるでしょう。東京大学の協定校や政府機関が募集するものについては、Go Global ウェブサイトでも随時案内しているので、参考にしてください。

東京大学が募集するプログラムと違い、手続きをすべて自分で進めることになるため、十分な情報収集を行うことが必要です。応募前に、留学時の所属学部・研究科の担当部署にて手続き等をよく確認しておくことも重要です。

(参考)日本学生支援機構「留学斡旋業者の利用について」http://ryugaku.jasso.go.jp/oversea_info/basic/agency

海外には数多くの東大同窓会があります！

東京大学卒業生のネットワークは近年急速に広がっており、海外には、35ヵ国・地域に57の同窓会が組織されています。海外における体験活動プログラムやサマー/ウィンタープログラムなどを通じて、在学生に向けて様々なサポートを提供してくれています。コロナ禍ならではの動きとして、オンラインで在米、在欧、在アジアの同窓会が横断的につながり、在学生に情報を提供する活動も始まっています。世界で活躍している卒業生とのネットワークをぜひ活用してください。

海外同窓会の一覧と各同窓会のコンタクト先はこちら



https://www.u-tokyo.ac.jp/en/alumni/alumni_association.html



2. 留学にかかる費用と奨学金

1) 費用と奨学金例

① 費用一般について

長期留学の場合、国・地域や期間によりますが、一般的におよそ200～300万円以上（1年間）の学費・生活費等がかかります。留学しない場合も必要となる、日本での学費・生活費も考慮して検討してみましょう。全学交換留学や学部・研究科間交換留学等の場合には、原則として留学先に授業料を納める必要はなく、東京大学に東京大学の授業料を納めることになります。また、交換留学以外でも、東京大学を通じて申し込むプログラムでは、プログラムの実施機関から東京大学の学生向けの費用の割引・免除・参加補助等が受けられる場合があります。



2) 支援者からのメッセージ

“Go Global”にチャレンジする東大生に社会が期待しています！

グローバルに活躍する人材の輩出を目指し、学生の留学・海外活動を推進する東京大学の取り組みには、卒業生をはじめとする社会から広く賛同を頂いています。そうした方々からの貴重なご寄附による奨学金も増えています。ここでは、支援者からのメッセージとともに、寄附奨学金プロジェクトの先輩奨学生からの声も併せて紹介します。

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム

支援者からのメッセージ

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラムは、株式会社ゼンショーホールディングスからのご寄附にもとづき、日本と中国との将来を担う人材を育成するため、東京大学が中国の大学と行う学生交流の教育プログラムです。中国を代表する大学の一つである南京大学と連携し、リベラルアーツ教育を通して、双方の学生がともに考え、ともに啓発する中で信頼関係を育み、豊かな人間性を備えた知中派・知日派となることを目指します。本プログラムは①東大×南大共同フィールドワークin南京（3月）②サマースクールin南京（8月）③東大×南大共同フィールドワークin東京（11月）④上級中国語研修（深思北京）から構成されていますが、実施については時節の状況を勘案して決定して参ります。

日中の未来を拓く知中派・知日派を

小川 賢太郎氏

株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長 兼 社長



今から400年前、世界人口は5億人余、その60％はアジアに住んでいました。GDPの重心もアジアにありました。ところが1600年、世界最初の株式会社といわれるイギリス東インド会社（EIC）の設立と、1602年のオランダ東インド会社（VOC）の設立を境に、世界構造が急激に変化していきます。アジアの富のヨーロッパへの移動、本格的蓄積が始まり、これがヨーロッパにおけるその後の技術革新、産業革命へとつながり世界はヨーロッパによる支配の時代へと移行します。1585年3万人であった、アムステルダム的人口は1622年には3.5倍の10万5千人へと急増します。

今、世界の構造は400年ぶりの大転換期を迎えています。世界人口に占めるアジアの比率は再び60％を超え、GDPの重心も急速にアジアに移動しつつあります。

このような歴史の流れを見ると、アジア地域の安定的発展と世界全体の平和的発展のため、日中両国の果たすべき役割は大変大きいのではないのでしょうか。そしてそれを具現化していくには、両国において幅広い知識をもとに物事を大局的・総合的に見て、判断し、行動する人財が不可欠であります。

南京大学におけるリベラルアーツのプログラムは東京大学の全面的な支援のもと、両国の歴史・文化・技術について深い理解を持った人財の育成を長期的視点で進めており、株式会社ゼンショーホールディングスも物心両面における全面的な支援をさせていただいております。

このプログラムが、日中両国について深い理解を持つ高度人財を継続的に育て、日本と中国、そしてアジアと世界の安定的発展に資することを期待しております。

参加学生からの声



石川 禎子
教養学部国際関係論コース

私は2021年、2022年の二年間、深思北京のオンラインプログラムに参加して、貴重な体験をさせていただきました。本プログラムは東京大学と中国人民大学の共同開催プログラムで、毎年異なるテーマ設定の下で学生が所属大学関係なくグループを作って、交流しながら一つの最終作品を作り上げていくものです。2021年のテーマは「Z世代の生活誌」で、2022年は「社会人の取材」で、非常に親近感を持ちやすい題材となっており、各グループは作品を上げるために頻繁に連絡を取り合ったりzoom会議を開いたりします。作品作りもちろん楽しいのですが、私はグループメンバーと雑談するのも非常に好きでした。面白い論文をシェアして議論したり、日中社会のジェンダー状況を比較したりという学術的な話題から、大学生の日常生活のような身近な話題まで、私たちのグルーptークは止まる所を知りませんでした。距離にして2,000キロほど離れているにも関わらず、私たちは非常に親しい仲となりました。私が2022年のAセメスターに北京大学に留学した際には2021年のプログラムのグループメンバーと感動の対面を果たし、北京を案内してもらいました。深思北京のプログラムは、中国の現状を知る機会と同世代の学生との友情をもたらしてくれました。プログラム中、親切にフォローしてくださった先生方、温かく接してくれた東大生、人民大学生に感謝いたします。

Go Global奨学金基金「Fung Scholarships」支援者からのメッセージ

東京大学グローバル・アドバイザリー・ボードのメンバーの一人であるVictor K. Fung氏が代表を務める香港のVictor and William Fung Foundationによる、学部学生の留学を支援することを目的にしたFung Scholarshipsが2015年度よりスタートしました。Fung氏は、世界の有力大学に対して学生の留学奨学金を支援しており、その奨学生達Fung Scholarsは既に6,000名に達しています。日本では東京大学の学生が初めてその仲間入りをしました。本奨学金プログラムでは、毎年20名程度の学部学生が、LLICプログラム（p16参照）や全学交換留学（p6-11参照）に参加し、Fung Scholarsとして香港大学や本学との協定校へ派遣されます。

Dr. Victor K. Fung
Chairman, Victor and William Fung Foundation
Group Chairman, Fung Group



Fung Scholars Programme:

With the increasing trend of globalisation, graduates with international outlook and experience of diverse cultures and environments would be the human capital critical to the continuous progress of a society. It was with this conviction, the Fung Scholars Programme, set up by the Victor and William Fung Foundation based in Hong Kong, was established to support university students to experience learning, communicating and networking outside their own culture. The recipients of the Fung Scholarships are known as Fung Scholars and Fung Fellows for postgraduates. They are chosen on the basis of their academic excellence and leadership potential.

Since the launch of the Fung Scholars Programme in Bangladesh, Hong Kong, Japan, mainland China, Singapore, Turkey, UK and USA, there have been more than 6,900 scholarship recipients benefiting from the initiatives. To maintain and energise the network of Fung Scholars and Fung Fellows, the Foundation organises an annual Leadership Conference as well as other activities. City-based local chapters are established in Tokyo, Hong Kong, Singapore, China, New York, Boston and London to provide localised platforms for Fung Scholars in different cities on ideas exchange and give back to their communities.

Fung Scholars are highly recommended to form volunteer teams and share their learning and thoughts in Fung Scholars Network Newsletters. More information of the Fung Scholarships: www.FungScholars.org.

“We hope the University of Tokyo Fung Scholars will benefit greatly from this programme, and with wider exposure and experience, share with other Fung Scholars and the community at large the experiences and insights he/she gained from his/her study and/or work experience. We hope through this platform, our Fung Scholars and Fung Fellows are able to expand their network with other Fung Scholars and Fung Fellows worldwide, and that they will be able to contribute much more to the community.”



東京でもFung Scholarsの集いを開催し、奨学生間の交流を深めています。

詳細はこちら



<https://www.fungfoundation.org/>

東京大学では本ページで紹介したプロジェクトのほか、東京大学基金のもとに「Go Global奨学金基金」を立ち上げ、卒業生や企業へ支援のお願いをしています。本基金の趣旨にご賛同頂いた多くの方々から多大なご寄附を頂き、東大生の“Go Global”を支えて頂いています。

米国留学の強い味方!“FUTI”(Friends of UTokyo, Inc.)の奨学金

FUTI(Friends of UTokyo, Inc.:東大友の会)は、東京大学の国際化を支援する目的で卒業生を中心に設立された、米国ニューヨーク州登録のNPOです。ニューヨーク州立大学の尾島巖卓越教授(1968年理学部卒)が理事長を務め、卒業生や企業等の寄附のもとに奨学金給付や研究助成を行っています。奨学金は、東京大学と米国各大学の学生が双方向に夏季短期留学、または1学期以上の中長期留学をする場合に、応募者を選抜して支給されます。選考では、学業成績、英語成績、エッセイ、リーダーシップ実績、推薦状が均等に評価されます。リーダーシップでは、学業や研究での実績の他、高校・大学での部活動、ボランティア活動等が評価されます。次の3つの奨学金を、それぞれの寄付者の想いに沿ってFUTIが運用します。

●**米国伊藤財団—FUTI奨学金**:米国への中長期留学を対象とした奨学金です。伊藤雅俊氏((株)セブン&アイ・ホールディングス名誉会長)が理事長の米国伊藤財団からのご寄付を原資としています。将来日本社会に貢献が期待できる東京大学の学生、当該年度または過年度卒業生の、学部・修士課程・博士課程への留学生10名弱を毎年支援しています。また、活発な課外活動の結果、学業・英語学習に時間制約があった方や、経済的に特別な困難がある方を歓迎する奨学金(IF育英奨学金)もあります。

●**周順圭・周滝沢愛子奨学金**:東京大学と米国各大学の双方向の夏季短期および中長期の留学を対象とした奨学金です。周ご夫妻が東京大学ニューヨークオフィス(UTokyoNY)に寄付された基金を原資として2023年度から正式に発足しました。周順圭氏は上海市出身で、東京大学大学院で工学博士を取得された後に、米国で半導体関係の企業を複数成功させたエンジェル投資家です。中国・日本・米国の協調発展と、よりよい社会を作ることにつながる人材に投資されます。学部・修士課程・博士課程への留学生10名弱を毎年支援しています。

●**FUTI奨学金**:東京大学と米国各大学の双方向の夏季短期(毎年十数名)および中長期(毎年数名)の留学を対象とした奨学金です。信越化学工業(株)の米国法人Shintech, Inc.のご寄付と、多数の東京大学卒業生個人のご寄付を原資としています。過去にFUTI関連の奨学金を受け、既に社会で活躍している元奨学生からの自発的なご寄付も含まれています。東京大学の国際化進展を期待し、益々の発展を願う想いが込められた奨学金です。



UC Berkeleyでのサマーセッションの様子
留学レポートはFUTIのウェブサイトでご覧いただけます。

詳細はこちら



<http://www.todaitomonokai.org/>

3. 留学における学籍・単位認定

留学等のため海外へ渡航する場合には、所属学部・研究科の担当部署に事前に相談してください。東京大学での学籍上の手続き（留学願、休学願、海外渡航届等）が必要な場合がほとんどです。学籍上の取扱いによって、授業料納入の有無や単位互換の可否が異なりますので注意してください。

[海外渡航の際の主な学籍上の手続き]

●「留学」：留学の手続きをとる

●「休学」：休学の手続きをとる

上記の手続きをとらず、海外渡航する場合は、海外渡航届等の手続きを行ってください（例：夏季休業期間を利用し、海外大学に語学留学する場合等）。

[海外の大学で修学する場合の、学籍上の「留学」と「休学」の違い]

「留学」の手続きによる場合と「休学」の手続きによる場合の違いは、右の表を参考にしてください。

※交換留学の場合は、「留学」または「研究指導の委託」の手続きが必要です。
※留学先大学で取得した単位の東京大学における認定については、事前に留学時の所属学部・研究科の担当部署に相談してください。
※以下は一般的な情報です。学部・研究科により異なる場合があります。

	「留学」の手続きによる場合 （交換留学）	「留学」の手続きによる場合 （交換留学以外）	「休学」の手続きによる場合
留学先大学での「単位」取得	可	可	可
留学先大学での「学位」取得	不可	不可	場合により可
留学先大学での授業料	払わない	払う	払う
東京大学での授業料	払う	払う	払わない（ただし、休学開始時期にもよるので注意が必要）
修業年限	算入される	算入される	算入されない
東京大学での単位認定	可（ただし、所属学部・研究科が承認した場合）	学部・研究科により異なる	学部・研究科により異なる

外国の大学において取得した単位の取扱いに関する規則（学部学生）

《東京大学学部通則》

第3章 留学

■留学

第14条の2

学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学^{注釈1}することなく外国の大学において授業科目を履修し、単位を取得することを許可することができる。

2 前項の規定により外国の大学において修学する期間は、おおむね1年を限度とするものとする。

■単位の認定

第14条の3

学部長は、学生が留学の期間において修得した授業科目及び単位数については、前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えない範囲で、本学における相当する授業科目及び単位数を修得したものとみなすことができる。

■申請手続

第14条の4

留学の許可及び単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書^{注釈2}を学部長に提出しなければならない。

2 留学許可及び単位認定等の申請手続については、各学部の定めるところによる。

注釈

1 休学して海外修学する場合は、休学期間は在学期間には含まれないため、その分、卒業の時期が遅れることになる。なお、休学期間中に海外の大学等で単位を取得した場合の本学における単位の取扱いは、第14条の5の規定により各学部の定めによるので、教務担当部署で確認すること。

2 「留学許可願」を担当部署に提出する。

留学についての詳細は、留学時に在籍する学部の担当部署に事前に相談し確認してください。

※大学院学生については以下を参照してください。

●東京大学大学院学則 第28条（留学）

●東京大学大学院専門職学位課程規則 第23条（他の大学院における授業科目の履修等）

※2023年2月1日現在の情報です。

外国の大学において取得した単位の各学部・研究科の取扱い例

※本ページの情報は、2022年2月1日現在の情報です。※詳細については、各学部・研究科の規則や、教務担当部署で確認してください。

学部

法学部	法学部において開設されている授業科目に相当する場合には、これを「相当科目」として認定する。相当科目に該当しない場合においては、審査の上、随意科目として認定する。
医学部	単位認定を希望する場合には、事前に学務チーム（学部担当）に相談すること。なお、医学科は単位制ではない。
工学部	当該学科の審査により、科目配当表の単位として認定することができる。また、それ以外の科目についても学科で必要と認めた場合には、卒業単位に算入することができる。
文学部	外国の大学で取得した単位の認定は、「留学」した場合および休学して外国の大学に「修学」した場合に限る。学部教務委員会において適切と判断された場合は、必修科目または必修科目以外の科目に認定され、卒業単位に含めることができる。
理学部	外国の大学において修得した科目及び単位数は、手続きを行い審査の上認められた場合に、卒業に必要な単位数に含めることができる。認定を希望する者は、事前に所属学科事務室に相談の上、帰国後速やかに、単位認定申請書等必要書類を所属学科事務室に提出すること。
農学部	単位認定を希望する者は、事前に学生支援チーム（学部学生担当）に相談すること。
経済学部	学生交流協定に基づく交換留学派遣の場合は、留学先で単位を取得し、留学後に単位認定申請を行わなければならない。教務委員会・教授会で審査の上、適切と判断された場合、本学部の基準で単位数を換算の上、選択科目として単位が認定され、卒業単位に含めることができる。単位の認定は交換留学派遣で取得した単位に限る。
教養学部（前期課程）	外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず事前に教務課前期課程チーム（PEAK生は国際化推進チーム）で説明を受けること。
教養学部（後期課程）	東京大学と学生交流覚書を締結している大学に留学等をして取得した単位については、所定の期間内に単位認定を申請し、学部教務委員会・後期運営委員会において適切と判断された場合、定められた上限単位数まで卒業単位として認定を受けることができる。詳細については「教養学部便覧」を参照のこと。
教育学部	原則として、全学学生交流に基づく交換留学協定校等、東京大学からの推薦に基づく派遣先大学に限る。選択科目の単位として一括して認定することができる。単位の認定は学務委員会の議を経た後、教授会で承認する。
薬学部	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。

大学院

法学政治学研究科	〈総合法政専攻〉においては、学生が留学先大学で単位を取得した科目の認定には、学生からの単位認定申請にもとづき、学務委員会で判断する。なお、休学中に外国の大学院において取得した単位についても、認定することは可能である。
医学系研究科	外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学（休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り）および留学の場合に、修士課程および博士課程を通じて10単位を超えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、学務チーム（大学院担当）へ相談すること。
工学系研究科	外国の大学院に「留学」して、当該大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し、修得した単位は、申請により、本研究科における相当する科目・単位として認定される。留学先大学で修得した単位は、当該大学院の履修時間および採点基準を考慮して、東京大学の基準で単位数および成績の換算をする（そのまま本研究科と同じ単位数として換算されるとは限らない）。※休学して外国の大学院に「修学」した時の、当該大学院で修得した単位は、本研究科の単位には認定されない。
人文社会系研究科	留学または休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目および単位は、修士課程および博士後期課程を通して15単位を限度として、自由選択科目の単位に算入することができる。また、休学の理由は「海外修学」に限る。なお、単位の認定を希望する場合は、学生支援チーム（大学院担当）に事前に相談すること。
理学系研究科	外国の大学の大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し単位を取得した場合、修士課程および博士後期課程を通じて、15単位を超えない範囲で本研究科において単位を認定することができる。希望者は、渡航前に専攻事務室で手続きに関する指示を受けること。
農学生命科学研究科	所属専攻および教育会議の議を経て認定する。手続きは留学前に行うこと。認定範囲、提出書類等は教務課へ相談すること。
経済学研究科	学生交流協定に基づく「留学」の身分により科目履修を目的として派遣された場合は、留学先で単位を取得し、留学後に単位認定申請を行わなければならない。教育会議にて適切と判断された場合、本研究科の基準で単位数を換算の上、単位が認定され、修了単位に含めることができる。単位の認定は交換留学派遣で取得した単位に限る。
総合文化研究科	留学または休学期間中に外国の大学の大学院において取得した単位および外国の大学の大学院が行う通信教育における授業科目を日本国内で履修し取得した単位は、修士課程および博士後期課程を通じて15単位を超えない範囲で本研究科の授業科目および単位として認定することができる。単位の認定を希望する場合は、総合文化大学院チーム（GPEAK生は国際化推進チーム）で必要な手続きをとること。授業科目および単位の認定は、認定希望者からの申請を専攻等で審査のうえ、研究科教育会議で決定する。なお、本研究科の授業科目および単位の認定の申請ができる休学の理由は、原則として海外修学のみとする。
教育学研究科	留学期間中に外国の大学の大学院において取得した科目および単位は、研究科教育会議の議を経て、本研究科における選択科目に相当する科目および単位として認定することができる。ただし、認定できる単位数は、修士・博士課程を通じて15単位を超えないものとする。単位の認定を希望する場合は、学生支援チームにあらかじめ相談すること。
薬学系研究科	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。
数理科学研究科	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。
新領域創成科学研究科	外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学（休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り）および留学の場合に、研究科として認定の可否を行うので、新領域創成科学研究科教務チームへ相談すること。
情報理工学系研究科	外国の大学院に「留学」して、当該大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し、単位を認定された場合は、申請により、本研究科における相当する科目として、修士及び博士課程を通じて15単位まで認定される。当該大学院が認定した単位数は、授業時間数の関係から、そのまま本研究科と同じ単位数として換算されるとは限らない。休学して外国の大学院に「修学」した時の、当該大学で修得した単位は、本研究科修了単位には認定されない。
学際情報学府	留学または休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目および単位は、本学府の承認を得ることにより、修士課程および博士課程を通じて、10単位を超えない範囲で認定することができる。単位認定を希望する者は、事前に学務チームに相談すること。
公共政策学教育部	公共政策学教育部において、教育上必要とみとめる時は、他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、専門職学位課程の修了要件として定める単位数の2分の1を超えない範囲内で認定することができる。博士後期課程において単位認定を希望する者は、事前に学務チームに相談すること。

4. 語学能力検定試験

留学する場合、留学先大学や東京大学が求める語学能力の基準を満たす必要があります。語学能力試験は、受験予約が取りにくいことがあるので計画的に受験しましょう。また、募集開始から書類提出締切までの期間が非常に短いプログラムもあります。締切日までにスコアを取得できない学生が例年見受けられますので、短期・長期に関わらず留学を考えている場合は早めに受験し、有効期限を満たすスコアを常に所持しておくようにしましょう。

英語圏への留学

一般的に英語圏の大学への留学にはTOEFL iBTやIELTS (Academic Module) のスコアの提出が必要です。TOEICや英検(実用英語技能検定)は日本の就職活動等では広く用いられますが、海外大学への留学の際には語学能力証明として認められないケースも多いため、注意してください。また、TOEFL PBTやTOEFL ITPも公式スコアとして認められないケースがあります。

	TOEFL iBT	IELTS (Academic Module)
概要	米国を始め世界各国の大学等で英語力の証明として利用されており、150を超える国と地域の11,000以上の大学、機関、その他の団体が TOEFL テストスコアを受け付けている。2020年より、自宅受験できるTOEFL iBT Home Editionも開始。	英国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほとんどの教育機関で受け入れられており、米国でも広がっている。英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するもので、一般的に、大学や大学院において英語で学びたい場合はAcademic Moduleの結果が必要となる。
スコア	0～120(1ポイント刻み)	1.0～9.0(0.5ポイント刻み)
試験日	ほぼ毎週末、年間45回以上(テスト会場受験の場合)	東京では毎月3回程度実施
受験料	US \$245(通常申込時)	25,380円
スコア有効期限	2年間	2年間

関連ウェブサイト: TOEFL <https://www.ets.org/jp/toefl> IELTS <https://www.eiken.or.jp/ielts/>

学内で開講している「スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)」(p31参照)では、日常会話、プレゼンテーション、TOEFL対策講座等の有料のプログラムを提供しています。留学応募前または留学が決まった後の英語力向上に活用してください。

英語圏外への留学

留学先の大学によって、必要な語学能力の基準が設定されている場合があります。下表に示す語学能力試験は一例ですが、一般的に日本語話者向けの検定(例:実用フランス語技能検定試験等)は海外大学への留学の際に語学能力として認められないケースも多いため、注意してください。また、語学能力試験によって有効期間が異なるので、必ず試験実施団体のウェブサイト等を確認しましょう。

(英語以外の語学能力試験例)

言語	語学能力試験
韓国語	TOPIK/KLAT
スペイン語	DELE
中国語	HSK
ドイツ語	TestDaF/Goethe-Zertifikat/Telc
フランス語	DELFS・DALF/TCF/TEF

5. 安全と危機管理

海外では、慣れない場所で、どこにどのような危険があるのかが十分に把握できないこともあるため、交通事故・窃盗・強盗・詐欺等、様々な被害に遭う可能性が高くなります。海外に留学するにあたっては、「自分の身は自分で守る」という意識と、そのために自ら情報を収集し、危機を回避することが鉄則です。東京大学では学生および教職員のための「海外渡航危機管理ガイドブック」を作成しています。海外に渡航する学生は必ず熟読し、海外でのリスクについて事前に知り、十分に準備するようにしてください。海外渡航危機管理ガイドブック <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/voyage-safety.html>

健康管理と安全管理に関する事前準備

『海外渡航危機管理ガイドブック』を参考に、海外において安全、快適に研究・学習等を行っていくうえで欠かせない「健康管理」と「安全管理」の両面から、渡航前の危機回避対策を必ず行ってください(健康診断、歯科検診、常備薬の準備、予防(ワクチン)接種、渡航先に関する情報の事前収集、緊急対応リストの携行等)。留学前には、外務省「海外安全ホームページ」を必ず確認してください。国・地域別の「危険情報」「感染症危険情報」、犯罪・事件・テロについての情報や、渡航・滞在における注意事項を発信しています。また、東京大学の保健センターでは、渡航前医療相談を実施していますので活用してください。外務省「海外安全ホームページ」 <https://www.anzen.mofa.go.jp/> 保健センタートラベルクリニック <https://www.hc.u-tokyo.ac.jp/in-campus/>

所属学部・研究科での届け出

留学等により海外渡航する際には、渡航目的により「留学許可願」、「海外渡航届」、「休学願」等の提出が必要になります。所属学部・研究科の担当部署に確認し、必要な手続きを行ってください。

海外渡航中の報告・連絡・相談

海外渡航中、何か問題が生じた場合や相談事があるような場合、また緊急事態等が発生した場合は、速やかにプログラムの担当者や東京大学の担当者に報告・連絡・相談してください。また万一生命、身体が危険にさらされるような事態が生じた場合は、渡航先の在外公館に援護を求めてください。現地で天災、感染症、テロ等が発生した場合は、たとえ自分には何も被害がなくても、安否について速やかに東京大学の担当者に連絡してください。なお、家族にも定期的に連絡を取るようにしてください。

「在留届」の提出・「たびレジ」の登録

日本国籍の方が海外に3ヶ月以上滞在する場合は、「在留届」の提出が必要です。万一、海外で事件・事故や思わぬ災害に巻き込まれた場合、日本国大使館や総領事館は、この「在留届」をもとに

日本人の所在地や緊急連絡先を確認して援護します。また、3ヶ月以内の滞在では、外務省海外安全情報配信サービス「たびレジ」に登録しましょう。同省の専用サイトに必要事項(旅行日程・滞在先・連絡先)を登録することにより、滞在先の最新情報や緊急事態発生時の連絡メール、あるいは、いざという時の緊急連絡等の受け取りが可能です。外務省ホームページ「海外渡航・滞在」 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/index.html>

保険への加入

海外渡航中の保険については、必ず出発前に、出発から帰国までの期間をカバーする海外旅行保険・留学保険等に加入してください。プログラムによっては、公益財団法人日本国際教育支援協会(JEES)の学研災付帯海外留学保険「付帯海学」に加入することが参加の条件となります(グローバル教育センター担当のプログラムについてはこれに該当します)。また、留学先大学等から指定する保険に加入することを求められた場合は、併せて加入が必要です。※日本の海外旅行保険・留学保険等は出国後には加入できないため注意してください。

海外安全危機管理サービス「OSSMA, Overseas Student Safety Management Assistance(オスマ)」

OSSMAは、海外滞在中に困ったことが発生した際に24時間365日、日本語・英語により適切なサポートを提供するサービスです。サービスの内容は、病気や怪我の電話相談、安否確認、ご家族渡航サポート等となっており、希望する場合加入できます(一部プログラムでは加入が参加の条件となります)。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/intl-activities/study-abroad/ossma.html>

その他

海外でも東京大学の学生であることを常に自覚し、行動や振る舞いには十分気をつけましょう。その他、プログラムの担当者、所属学部・研究科、指導教員等の指示に従い、安全と危機管理に十分注意してください。



6. 留学と就職活動

留学を考える際に、就職活動のことが気になる学生も多いでしょう。留学も就職活動も悔いなく両立するためには、留学が就職活動に与えるとされるメリットやデメリット、就職活動をする年度の採用スケジュールや留学先で参加できる就職イベント等、事前の幅広い情報収集が重要です。

留学前に大学の窓口を利用しましょう

就職活動のスケジュール(企業の採用情報公開の時期、面接等の選考開始時期)についてキャリアサポート室等を利用し、常に最新の情報を得られるように準備しておきましょう。

留学前に情報収集しておくこと

●就職活動のスケジュール ●帰国後の履修・卒業計画 ●外資系・ベンチャー企業等独自の採用活動を行う企業情報

情報収集の機会

●留学先の大学や都市のキャリアフォーラム ●各種キャリアガイダンス(キャリアサポート室主催)
●海外留学経験者向け就職情報サイト

大学の留学フェアを利用して留学経験者や留学担当者等から話をたくさん聞き、より多くの情報を収集しましょう。留学先や留学から帰国する時期・卒業の予定等それぞれの事情にあわせて、自分の就職活動を考えてみましょう。本郷のキャリアサポート室では就職活動のスケジュールをはじめ、留学が進学か迷ったときや、企業分析や自己理解等の相談に専門のキャリアアドバイザーが個別にお応えします(ただし、英語のエントリーシートの添削は行っていません)。OBOG訪問用名簿や先輩の進路情報もありますので、利用してください。キャリア相談およびOBOG名簿の閲覧は予約制ですので、キャリアサポート室のウェブサイトからお申し込みください。

最新情報はキャリアサポート室ウェブサイトをご確認ください

<https://www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/>



学生体験記

氏名：水口 隼希さん
所属・学年(留学開始時)：工学系研究科社会基盤学専攻修士2年
留学先大学：ライデン大学
留学期間：2022年9月～2023年1月(5ヶ月間)
就職先の業界：総合商社

「働く」ことの意味・概念の異国での学び

私は留学前に就職先が決まっていたのですが、業界選択や企業選びなど自分のキャリアの選択に自信を持たせてくれ、将来の視野を広くしてくれたのはこの留学だったと思います。日本で忙しく過ごす中、今後のキャリアや自分の生き方を見つめ直す期間として従来の価値観や社会システムと違う環境で生活することを目的に学部時代にデンマークにも半年、交換留学をしました。そして日本に帰国後の修士課程では、その際に感じた日本での働き方や人生の過ごし方に対する違和感、しかし同時に感じた日本の居心地の良さ、日本という国の素晴らしさ、友人らから聞いたりリアルな働き方、この全ての情報を咀嚼し、結論を出すこと(どこでどう働きたいか)に努めました。そして、明瞭でなくとも自分なりの答えを出しオランダに留学したわけですが、デンマークとさらに違い、むしろ働き方やキャリアに対するモノの見方において日本との共通点をオランダでの生活で感じました。また同時に、現地の友人との会話や生活を通じて、工学(国際協力学)という専門から離れ、かつ海外勤務という可能性がある将来の仕事を選ぶという自分の選択が、自分の納得の上であったという思いをより強くしてくれました。今後の自分の人生に更に期待感を感じさせてくれたオランダでの生活は、就活という人生のステップに対しての答え合わせの期間でもあり、同時に自分の今後の人生の道標になると思っています。価値観を広げたり、海外に住むとは具体的にどんなことなのか、漠然と海外について知ったりするという意味でも、少しでも海外に興味のある学生はぜひ一度留学に行くことをお勧めします。



7. 卒業後の大学院留学

ここまで、交換留学や短期の留学といった、東京大学在学中の留学について紹介してきました。東京大学では現在、主に在学中の留学をサポートしていますが、卒業後の海外の大学院への留学についても情報提供等を行っています。

海外大学院のシステム

海外の大学院は、留学期間は異なりますが、大きく分けて Graduate School と、Professional School の2つの種類があります。Graduate School では、東京大学在学中に学んだ学術研究をより専門的に深めることができます。一方、Medical、Law や Business に代表される Professional School では、職業に直結した教育を受けることができます。世界各国で教育システムが異なるように、海外の大学院のシステムは日本と異なることが多いので十分な情報収集が必要です。大学院レベルで提供される学位は、修士号(Master's Degree)と博士号(Doctoral Degree or Ph.D.)があります。修士課程は、通常1～2年間の課程です。講義の履修だけで修了できるプログラム、修士論文を課すプログラム等、その形態は大学や学科によって様々です。博士課程は決まった年限を設けていないことが多いですが、概ね3～5年程度の研究期間を必要とします。修士号を必要とするプログラム、修士課程を経ずに直接出願可能なプログラムがあり、前者は修士課程で取得した単位を用いることができる場合もあります。後者

は修士課程・博士課程が一体となっているもの、修士号の取得をスキップするもの等、状況や希望に合わせて進路を選ぶプログラムも存在します。

大学院留学の情報収集

留学先の国や大学によって制度が異なる場合が多く、学士課程時の専攻と異なる分野での留学も可能なため、事前の情報収集が重要です。東京大学では、以下の方法で情報を入手することができます。

● Go Global ウェブサイト・ガイドブック

海外大学院留学プログラムに関する情報を随時紹介しています。また本ガイドブックの「留学にかかる費用と奨学金」(p42-43参照)で大学院留学に関する奨学金情報も提供しています。

● 説明会等の大学院留学関係イベント

Go Global ウェブサイトやSNS(p40参照)で、海外大学や各国大使館等が主催する説明会等、大学院留学関係のイベントを紹介しています。東京大学と関係の深い大学については東京大学で説明会が行われる場合もあります。

UT-OSAC (Overseas Study Advisory Community, the University of Tokyo)

東京大学の卒業生を中心とした団体であるUT-OSACでは、米国大学院学生会と協力し、海外大学院留学に関する情報提供や説明会等の開催、およびそのサポートを行っています。詳細は米国大学院学生会のウェブサイトをご覧ください。 <http://gakuiryugaku.net>

ウェブサイトにアクセス



海外大学院留学説明会主催者から

南出将志

(2013年工学部社会基盤学科卒業 2014年工学系研究科社会基盤学専攻修士課程修了、2018年ペンシルバニア州立大学気象学部博士号取得 工学系研究科社会基盤学専攻助教/NASAジェット推進研究所外部研究員を経て、現在は東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻助教。)

私たちは海外大学院留学を就職、進学に次ぐ第三の選択肢と考えています。これは日本での「既定のコース」とは異なるためハードルが高く、あまり身近でない選択肢かもしれません。しかし、その先には刺激的で数奇な体験と、大きく広がる世界観があなたを待っています。年2回(夏・冬)の説明会開催時には、世界トップクラスの大学院から多様な留学生や卒業生、教職員を講演者として招き、海外の大学院への出願方法や、利点、欠点、実際の生活の様子等を紹介しています。特に近年は、オンラインでの配信等、多様な形式の説明会を開催しています。留学を通じて世界で勝負してみたいみなさん、ぜひ上記の米国大学院学生会ウェブサイトをご覧ください。



大学院留学のスケジュールと必要なもの

海外の大学院への出願プロセスは、国内大学のものとは全く異なります。特に、米国やヨーロッパを中心として「GPA」「英語のスコア」「推薦状」「エッセイ」等を求められることが多いので、ここではそれらについて紹介します。具体的な点数や、そのほかに提出求められるもの等は、出願先によって大きく異なりますので、詳しくは出願先の大学院のウェブサイト等を直接確認しましょう。

- GPA: Grade Point Averageの略、授業成績の平均点を指します。後から取り戻せないものなので、早い段階から意識しておきましょう。
- 英語のスコア: TOEFLやIELTSが該当します。特に米国の大学院出願に必要なTOEFL iBTは、大学の講義や議論といった状況が想定されており、出願時だけでなく、進学後の英語対策にも効果的です。また、英語以外の共通試験として、米国のほとんどの大学院ではGREの受験が求められます。
- 推薦状: 計3通の提出を求められることが多いです。受験者の経験や能力、才能、人柄に関する記述が、具体的に書かれていることが大事なポイントとなります。自分の強みを多様な観点から評価頂けるように、先生方との関係を築いてください。
- エッセイ: 志望動機や、自分の研究での強み等をまとめた文章です。具体的に書けるように、専門分野の勉強を積み重ねましょう。
- その他: 研究業績(インパクトファクターの高い雑誌の筆頭著者論文等)や、外部奨学金等を持っていると高く評価されます。また、事前に受験先(指導教官の候補等)に連絡を取り、出願の意思表示をすると共に、自分の能力やどのような内容の研究が可能であるか等について、積極的な情報交換を行うことも非常に効果的です。

最終的な可否の判断は、これらの総合評価となります。出願年は出願書類や奨学金の応募書類、業績を上げるための卒業(修士)研究に集中できるように、それまでにGPAや英語のスコア等の準備を整えておきましょう。

8. よくある質問

【留学準備】

- Q. 留学を希望する場合、いつ頃から準備を始めればよいですか？
- A. （全学交換留学等長期留学の場合）留学のおよそ1年前に募集が行われるので、その時期に応募できるよう、早めに情報収集や語学能力試験の受験を進めておきましょう。
- （サマープログラム等短期留学の場合）グローバル教育センターが担当するサマープログラムの場合、プログラムによって異なりますが、その年の1～2月および4～5月に募集が行われるプログラムが最も多いので、その時期に応募ができるよう、早めに情報収集や語学能力試験の受験を進めておきましょう。個人で応募するサマープログラムも、早いものでは2～3月に応募が締め切られるものもありますが、中には6月頃まで申し込み可能なものもあります。

【学籍・単位】

- Q. 1学期～1年の間留学しても4年間で学部を卒業できますか？
- A. 交換留学の場合、期間や時期、単位取得や単位認定の状況によっては、4年で卒業が可能な場合もありますが、1年間の留学だと留年が必要となるケースも多くあります。所属学部を確認の上、計画的に授業履修や留学の準備を行ってください。ただし、単位の取り扱いは学部ごとに異なりますので、必ず交換留学の計画段階で所属学部を確認してください(p46-47参照)。
- Q. 現在休学しているのですが、全学交換留学や東京大学のプログラムに応募できますか？
- A. 留学時に休学から復帰していれば応募可能なプログラムもありますが、必ず所属学部・研究科の担当部署に確認をして申請してください。

【応募条件・選考】

- Q. 前期課程の学生も全学交換留学に参加できますか？
- A. できます。ただし、前期課程の科目の履修計画に関する留意点や、外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず教務課前期課程チーム(PEAK生は国際化推進チーム)で事前に説明を受けるようにしてください。
- Q. 英語に自信がなくても参加できる留学プログラムはありますか？
- A. 語学力向上目的のプログラムもありますので、Go Global ウェブサイト等でよく調べてみてください。一口に留学といっても、プログラムごとに目的や内容・レベルは様々ですので、自分のイメージだけで判断せず、事前にプログラムをよく調べて自分に適したプログラムに参加するようにしましょう。
- Q. 全学交換留学の学内選考はどのように行われますか？
- A. 全学交換留学の派遣候補者は、所属学部・研究科を通じた申請を経て、学業成績・語学能力・申請書の記述内容や面接等によりグローバル教育センターで総合的に選考審査され、決定されます。
- Q. Go Global ウェブサイトには締切日や提出先が記載されていない場合がありますが、どこで確認できますか？
- A. 東京大学では多くのプログラムで、自分の所属学部・研究科に応募書類を提出することになります。締切日や提出先は各学部・研究科で異なりますので、Go Global ウェブサイト上には記載されていないことがあります。各学部・研究科のウェブサイトや掲示板、窓口等で必ず確認するようにしてください。

【費用】

- Q. 留学に行く場合、費用はどのくらいかかりますか？
- A. （交換留学の場合）行く地域にもよりますが、日本で生活する場合とあまり変わらない程度の費用で留学することができる場合もあります。渡航費や生活費等は必要ですが、東京大学に授業料を納めていれば、留学先での授業料は不要となるためです。交換留学の場合、協定校の寮が利用できる場合が多く、奨学金制度も充実しているので、費用を抑えて留学することも可能です(p42-43参照)。
- （サマープログラム等短期留学の場合）費用はプログラムによって大きく異なります。ほぼ無料で参加できるものから、数十万円のプログラムまで様々ですので、よく調べ、予算に応じて参加プログラムを検討してください(p14-16参照)。

【その他】

- Q. 各プログラムの応募の倍率はどのくらいですか？
- A. 応募の倍率はプログラムによって大きく異なり、情報公開していない場合も多くあります。全学交換留学の場合は、Go Global ウェブサイトの各プログラムのページで応募状況や派遣実績を公開しています。人気が集中し倍率が高くなる留学先やプログラムもあるので、併願ができる場合は複数のプログラムに併願することをおすすめします。
- Q. 現在申し込もうと考えているプログラムの詳細や、過去の参加者の経験はどこで知ることができますか？
- A. まずは東京大学が公開している募集要項、留学先大学が作成しているプログラムのウェブサイトやパンフレットをよく読んでみてください。また、グローバル教育センターが担当するプログラムでは、Go Global ウェブサイト上に過去の参加者による詳細な報告書・留学体験記を掲載しているので、確認しましょう。派遣前のオリエンテーション等で過去の参加者と情報交換できる場合もあります。

留学体験記にアクセス



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/report-list.html>

- Q. 短期留学プログラム等に参加したいのですが、東京大学の授業や試験期間と時期が重なっている場合はどうなりますか？
- A. 海外の大学は6～7月が夏休みのところが多いため、その時期に開催されるプログラムも多くあります。自分の授業・試験日程等を応募前に十分確認し、参加が可能なプログラムに応募してください。留学のために東京大学の授業や試験に出席できない場合の扱いは、留学時の所属学部・研究科の判断によります。留学プログラム等への参加に際して、特別な配慮が行われるとは限りませんので、学部・研究科の担当部署に事前に十分確認し、納得した上で参加申請を行ってください。
- Q. 留学について質問したいのですが、どうしたらよいですか？
- A. 現在募集中のプログラムに関する具体的なことについては、所属学部・研究科の担当部署や、募集要項に記載されている問い合わせ先に確認するようにしましょう。
- その他、留学に関する一般的な情報提供およびグローバル教育センター主催のプログラムに関する東京大学の学生からの質問はウェブサイトで受け付けています(p41参照)。
- また、特定の学問分野の留学事情等については、所属学部・研究科の担当部署や指導教員、先輩等に相談してみるのがよいでしょう。

Go Global ウェブサイトでは、よくある質問を随時更新しています



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-faq-index.html>



〔編集・発行〕 2023年4月1日／東京大学グローバル教育センター
〔E-mail〕 studyabroadfair.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 〔Web〕 <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>